I-O DATA

GV-DVC3/CB取扱説明書 別冊

トラブルシューティング
&
DVworksリファレンス

必要に応じてお読みください

112684-01

もくじ

DVworksリファレンス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ● DVworksの画面構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- ● プレビューウィンドウ ・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- ● 情報表示パネル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- ● コントロールウィンドウ・・・・・・・・・・・・・・・10
- ● ファンクションパネル (DVキャプチャ) ・・・・・・・・・・15
- ● ファンクションパネル (DV書き戻し) ・・・・・・・・・・・・21
- ● ファンクションパネル (DV静止画キャプチャ) ・・・・・26
- ● ファンクションパネル (DV音声キャプチャ) ・・・・・・28
- ● ファンクションパネル (MPEGキャプチャ) ・・・・・・・・30
- ● ファンクションパネル (WMVキャプチャ) ・・・・・・・・・34
- ● ファンクションパネル (アナログキャプチャ) ・・・・・36
- ● ファンクションパネル (ダビング) ・・・・・・・・・・・・・37
- ● メディアビュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
- ● メニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

トラブルシューティング ・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
用語解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101

DVworksリファレンス

DVworksの詳細について

DVworksの各項目の詳細について説明します。

DVworksの画面構成・・・・・・・・・・・・・・・・ 5ページ
プレビューウィンドウ ・・・・・・・・・・・・・・ 6ページ
　　プレビューウィンドウのプロパティ・・・・・ 7ページ
情報表示パネル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9ページ
コントロールウィンドウ ・・・・・・・・・・・・・ 10ページ
　　Optionボタン・・・・・・・・・・・・・・・・ 12ページ
ファンクションパネル（DVキャプチャ） ・・・・・ 15ページ
　　キャプチャリストのメニュー・・・・・・・・ 17ページ
　　項目データの確認・修正・・・・・・・・・・ 18ページ
　　モード切り替えボタン・・・・・・・・・・・ 19ページ
ファンクションパネル（DV書き戻し） ・・・・・・ 21ページ
　　AVIデータの再生・確認 ・・・・・・・・・・ 23ページ
　　項目データの確認・修正（トリミング）・・・ 24ページ
ファンクションパネル（DV静止画キャプチャ） ・・ 26ページ
　　連続キャプチャする場合の設定・・・・・・・ 27ページ
　　モード切り替えボタン・・・・・・・・・・・ 27ページ
ファンクションパネル（DV音声キャプチャ） ・・・ 28ページ
　　連続キャプチャする場合の設定・・・・・・・ 29ページ
　　モード切り替えボタン・・・・・・・・・・・ 29ページ
ファンクションパネル（MPEGキャプチャ） ・・・・ 30ページ
　　MPEGキャプチャ設定・・・・・・・・・・・・ 31ページ
ファンクションパネル（WMVキャプチャ）・・・・・ 34ページ
　　WindowsMediaキャプチャ設定・・・・・・・・ 35ページ
ファンクションパネル（アナログキャプチャ） ・・ 36ページ
ファンクションパネル（ダビング） ・・・・・・・ 37ページ
メディアビュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38ページ
　　シーンリストのメニュー・・・・・・・・・・ 39ページ
　　シーン情報検出ボタン・・・・・・・・・・・ 40ページ
メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42ページ
　　［ファイル］メニュー・・・・・・・・・・・ 42ページ
　　［編集］メニュー・・・・・・・・・・・・・ 43ページ
　　［表示］メニュー・・・・・・・・・・・・・ 44ページ
　　［ヘルプ］メニュー・・・・・・・・・・・・ 44ページ

DVworksの画面構成

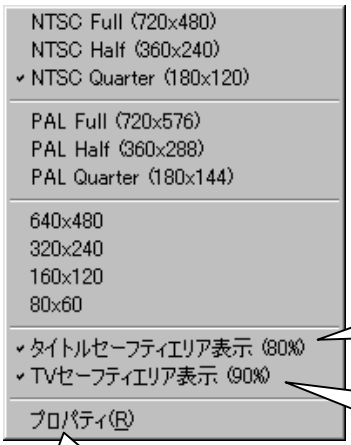
DVworksの画面は、以下の６つの部分から構成されています。

No	項目	説明	詳細
①	メニュー	メニューを表示します。プレビューウィンドウの横のツールバーにはよく使うアイコンが並んでいます。	42
②	プレビューウィンドウ	DV機器からの入力映像や書き戻し時の映像など、プレビュー表示が行われるウィンドウです。	6
③	情報表示パネル	DV機器・メディアに関する情報を表示するパネルです。	9
④	コントロールウィンドウ	DV機器をコントロールするためのボタンが配置されているウィンドウです。ウィンドウサイズは一定の大きさに固定されています。	10
⑤	ファンクションパネル	DVworksの各種機能に関する操作を行うためのパネルです。	15
⑥	メディアビュー	DVメディアの内容をシーン毎に情報表示する領域です。 ※シーンとは、撮影時に録画ボタンのONからOFFにするまで記録される映像のことです。	38

プレビューウィンドウ

DV機器からの入力映像や書き戻し時の映像など、プレビュー表示が行われるウィンドウです。

プレビューウィンドウ上で右クリックすると、以下に示すメニューが表示されます。メニューでプレビューウィンドウの各種設定ができます。



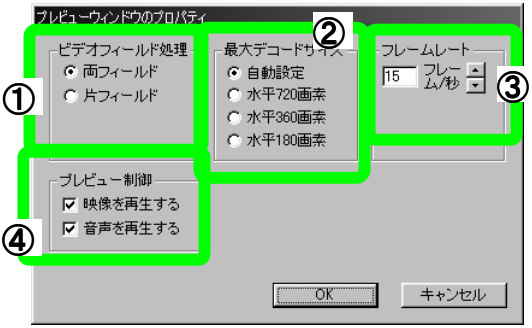
プレビューウィンドウのサイズを
チェックした項目で示されるサイズに変更します。
（[PAL…]は選択しないでください）

チェックすると、プレビューウィンドウ上にタイトルセーフティエリア（GV-DVC3/CB取扱説明書112ページ参照）を示す枠を表示します。

チェックすると、プレビューウィンドウ上にＴＶセーフティエリア（GV-DVC3/CB取扱説明書112ページ参照）を示す枠を表示します。

プレビューウィンドウに関する
［プロパティ］画面を表示します。
（次ページ参照）

プレビューウィンドウのプロパティ

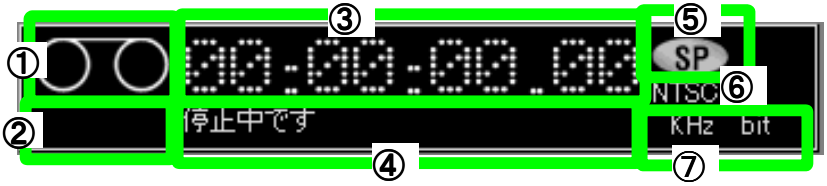


No.	項目	機能
①	**ビデオフィールド処理**	「プレビューウィンドウ」に表示するインターレースビデオ映像のフィールド処理方法を設定します。 **＜両フィールド＞　（初期設定）** 両フィールドの画像をインターリーブ処理します。 **＜片フィールド＞** 片方のフィールドのみを表示します。
②	**最大デコードサイズ**	実際にデコード処理を行う映像サイズを指定します。キャプチャ時にフレーム落ちが発生した場合に、デコードサイズを小さくすればプレビュー処理の負荷を軽減するため、フレーム落ちが軽減する場合があります。 **＜自動設定＞　（初期設定）** 自動的に最適な設定を行います。 **＜水平720画素＞　← 一番大きいサイズ** 水平720画素、DVストリームに含まれる全ての画素をデコードします。 **＜水平360画素＞** 水平360画素、水平画素数を1/2に間引いた形式でのデコードを行います。 **＜水平180画素＞　← 一番小さいサイズ** 水平180画素、水平画素数を1/4に間引いた形式でのデコードを行います。

No.	項目	機能
③	**フレームレート**	プレビュー画像のフレームレートを指定します。 NTSCビデオ信号が入力されている場合は最大30フレーム/秒、PALビデオ信号が入力されている場合は最大25フレーム/秒の指定を行えます。 **（初期設定：15フレーム/秒）** **大きくすると** プレビュー映像の品質が向上しますが、処理の負荷は増大します。 **小さくすると** プレビュー映像のフレーム数は落ちますが、処理の負荷は軽減されます。
④	**プレビュー制御**	**＜映像を再生する＞** チェックを外すと、入力されているDVストリームの映像の再生を行いません。そのため、処理の負荷は最も軽くなります。ただし、映像データ自体のキャプチャ処理は行われます。 **＜音声を再生する＞** チェックを外すと、入力されているDVストリームの音声トラックの再生を行いません。 ただし、音声データ自体のキャプチャ処理は行われます。

情報表示パネル

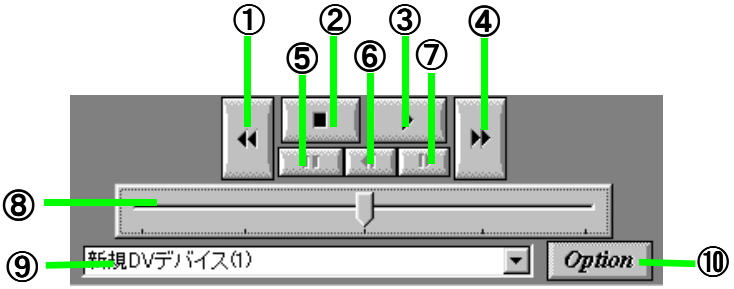
DV機器・メディアに関する情報を表示するパネルです。



No.	表示	内容
①	**メディア挿入状態** **メディア未挿入状態**	DV機器に現在メディアが挿入されているかどうかを表示します。 また、DVメディアの走行状態をアニメーション表示します。
②	**メディアプロテクト表示**	DV機器に現在挿入されているメディアが録画（記録）禁止に設定されている場合に表示されます。
③	**現在のタイムコード**	DV機器に挿入されているメディアの現在のタイムコードを表示します。
④	**DVworksステータス**	DVworksの現在の処理内容を表示します。
⑤	**DV機器記録時間モード**	DV機器の現在の記録時間モード（SP:標準 LP:長時間）を表示します。
⑥	**ビデオ信号形式**	接続しているDV機器がサポートしているビデオ信号形式を表示します。（NTSC/PAL）
⑦	**DV機器オーディオ記録周波数**	DV機器の現在のオーディオ記録周波数を表示します。DV機器から情報が取得できない場合は表示されません。 メディア再生中の場合は、DVストリームのオーディオ記録周波数を表示します。

コントロールウィンドウ

DV機器をコントロールするためのボタンが配置されているウィンドウです。

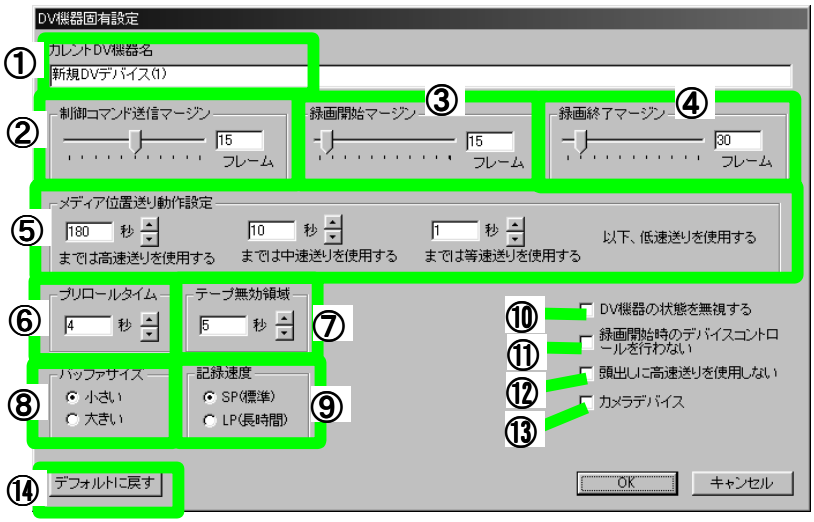


No.	ボタン	機能
①	**巻き戻しボタン**	**メディアが停止中の場合** 映像を表示せずにメディアを高速に巻き戻します。 **メディアが再生中の場合** 映像を表示しながらメディアを巻き戻します。 **メディアが一時停止中の場合** 映像を表示しながらスロー巻き戻しをします。
②	**ストップボタン**	DV機器のメディア再生、AVIファイルキャプチャ、DV機器への録画（書き戻し）を停止します。
③	**再生ボタン**	DV機器のメディアを再生します。
④	**早送りボタン**	**メディアが停止中の場合** 映像を表示せずにメディアを高速に早送りします。 **メディアが再生中の場合** 映像を表示しながらメディアを早送りします。 **メディアが一時停止中の場合** 映像を表示しながらスロー早送りをします。
⑤	**一時停止ボタン**	**メディアが再生中の場合** 再生を一時停止します。 **メディアが一時停止中の場合** 再生後、すぐに一時停止します。

No.	ボタン・項目	機能
⑥	 **フレーム戻し ボタン**	１フレーム前へとフレームを戻し、一時停止します。 ボタンをプレスする（押し続ける）ことによって、連続的にフレームを戻すことができます。
⑦	 **フレーム送り ボタン**	１フレーム先へとフレームを送り、一時停止します。 ボタンをプレスする（押し続ける）ことによって、連続的にフレームを送ることができます。
⑧	**シャトル スライダー**	DVメディア速度を調節するためのスライダーです。 シャトルスライダーにはジョグモードとシャトルモードがあります。 **ジョグ機能を使用するにはホイールマウスが必要です。** **＜シャトル機能＞** シャトル機能ではスライダーのつまみを離すと常にスライダーの中央に戻ります。つまみをドラッグして移動させると、つまみの位置に応じた再生速度でDV機器のメディア再生を行います。 **（再生速度） 中央が静止状態を表します。スライダー中央からつまみを右へ動かすほどDVメディア順方向への速度が大きくなります。スライダー中央からつまみを左へ動かすほどDVメディア逆方向への速度が大きくなります。** **＜ジョグ機能＞** ジョグ機能ではつまみが中央に固定されます。 ホイールマウスを使用している場合には、ホイールを前に回すと１フレーム戻し、後ろに回すと１フレーム送りを行います。
⑨	**DV機器選択 リスト**	本製品に複数のDV機器が接続されている場合に、操作するDV機器のリストを表示します。 リストには、DVworksが機器を初めて認識した時に登録された名前が表示されます。（GV-DVC3/CB取扱説明書73ページの手順**2**）
⑩	 **オプション ボタン**	「DV機器固有設定」画面を表示します。 （【Optionボタン】次ページ参照）

Optionボタン

現在対象としているDV機器の設定を行います。



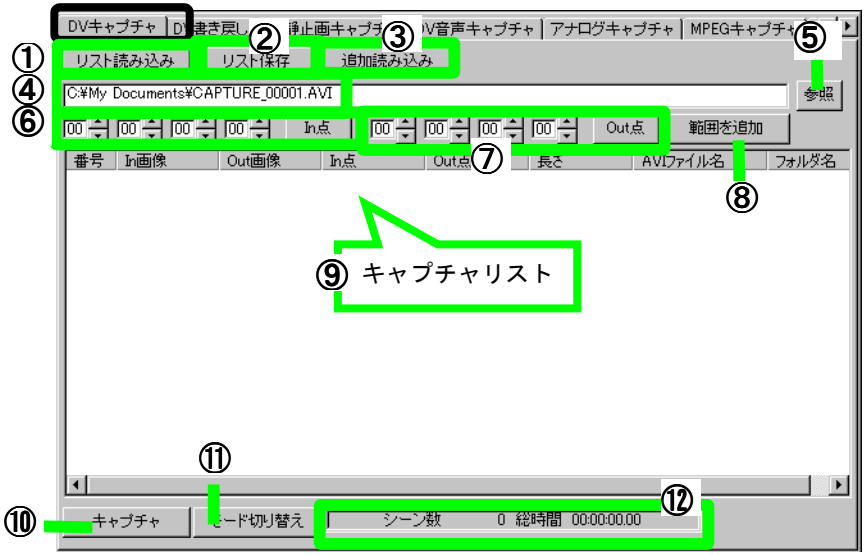
No.	項目	機能
①	**カレントDV機器名**	現在操作対象として選択されているDV機器の名前を示します。編集できます。
②	**制御コマンド送信マージン**	DV機器に連続してコマンドを発行する際の待ち時間を指定します。（単位はフレーム） **通常、初期設定から変更する必要はありません。**
③	**録画開始マージン**	DV機器のメディアにDVデータ出力を開始してから、実際に録画コマンドを発行するまでの待ち時間を指定します。（単位はフレーム） **通常、初期設定から変更する必要はありません。**
④	**録画終了マージン**	DV機器のメディアにDVデータ出力を終了してから、実際にメディア停止コマンドを発行するまでの待ち時間を指定します。（単位はフレーム） **通常、初期設定から変更する必要はありません。**

No.	項目	機能
⑤	**メディア位置送り動作設定**	バッチキャプチャやシーンジャンプ時のメディア頭出しを早めるための設定です。 設定は３つの数値で行います。 **＜一番左の数値＞** メディア現在位置と目標位置の時間差が、ここで指定されているよりも大きい場合にメディアの高速送りを使用します。 **＜中央の数値＞** メディア現在位置と目標位置の時間差が、ここで指定されているよりも大きく、かつ高速送り適用時間間隔よりも小さい場合にメディアの中速送りを使用します。 **＜一番右の数値＞** メディア現在位置と目標位置の時間差が、ここで指定されているよりも大きく、かつ中速送り適用時間間隔よりも小さい場合にメディアの低速送りを使用します。 それぞれの数値は常に高速送り時間＞中速送り時間＞低速送り時間という関係を保つように数値を自動的に制限します。
⑥	**プリロールタイム**	シーン検出キャプチャやタイムコードによるキャプチャを行うとき、指定されたキャプチャ開始点から何秒前へメディアを送るかを指定します。
⑦	**テープ無効領域**	シーン検出キャプチャやタイムコードによるキャプチャを行うとき、メディア先頭から何秒間までを処理しないかを指定します。 メディア先頭のデータが不正な場合にキャプチャ処理が誤動作しないようにします。
⑧	**バッファサイズ**	DVデータを扱うバッファのサイズを指定します。 **サイズを小さくすると** DV機器側のモニタによる表示とパソコン側の表示間のズレが小さくなりますが、DVデータを取りこぼしたり、書き戻しに失敗したりすることがあります。 **サイズを大きくすると** DVデータを取りこぼしにくくなりますが、DV機器側のモニタによる表示とパソコン側の表示間のズレが大きくなります。

No.	項目	機能
⑨	**記録速度**	接続されているDV機器の現在の記録時間モードを、SP（標準）,LP（長時間）で表示します。 接続されているDV機器が、外部機器からの記録時間モードの変更をサポートしている場合、ボタン操作が可能となり、記録時間モードを変更できます。
⑩	**DV機器の状態を無視する**	チェックを付けると、メディアのライトプロテクトと挿入状態を無視するようになります。
⑪	**録画開始時にデバイスコントロールを行わない**	チェックを付けると、DV機器への書き戻し開始時にDV機器をコントロールしなくなります。
⑫	**頭出しに高速送りを使用しない**	チェックを付けると、シーン検出やタイムコードキャプチャ時のメディア頭出し処理に、高速早送り・高速巻き戻しを使用しないようになります。DVメディア送り精度が向上する可能性があります。
⑬	**カメラデバイス**	チェックを付けると、接続DV機器をカメラとみなします。
⑭	**デフォルトに戻す**	DVworksインストール時の設定に戻します。

ファンクションパネル（DVキャプチャ）

[DVキャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。
キャプチャする項目は、メディアビューからドラッグしてキャプチャリストに登録することもできます。



No.	ボタン・項目	機能
①	**リスト読み込みボタン**	あらかじめ保存しておいた「キャプチャリストファイル」を読み込み、キャプチャリスト項目を表示します。初期設定時のフォルダは、My Documentsフォルダです。キャプチャリストファイルの拡張子は「BLS」です。
②	**リスト保存ボタン**	現在表示中のキャプチャリスト項目を「キャプチャリストファイル」として保存します。 保存時の初期設定のフォルダはMy Documentsフォルダです。キャプチャリストファイルの拡張子は「BLS」です。
③	**追加読み込みボタン**	別のキャプチャリストファイルを読み込み、現在表示中のキャプチャリストの項目に追加します。

No.	ボタン・項目	機能
④	**AVIファイルパス名**	リストに追加したいファイル名を表示します。
⑤	**参照**	AVIファイルを選択するためのファイル選択画面を開きます。
⑥	**In点（キャプチャ開始位置）**	バッチキャプチャ開始点をタイムコード形式で指定します。[In点]ボタンはタイムコードによるキャプチャを指定するときに使います。
⑦	**Out点（キャプチャ終了位置）**	バッチキャプチャ終了点をタイムコード形式で指定します。Out点を無制限指定（制限の無い指定）したい場合は、Out点のタイムコード値のすべてに「0」（ゼロ）を入力すれば設定されます。 [Out点]ボタンはタイムコードによるキャプチャを指定するときに使います。
⑧	**範囲を追加ボタン**	In点およびOut点で設定されたキャプチャ領域を、キャプチャリストに追加します。タイムコードによるキャプチャを行うときに使います。
⑨	**キャプチャリスト**	キャプチャリストは、登録されているキャプチャ項目のデータを列挙する領域です。 メディアビュー（38ページ参照）からドラッグすることもできます。 キャプチャ項目ごとに表示される情報は、項目番号、In画像、Out画像、In点タイムコード、Out点タイムコード、 長さ、 AVIファイル名、 フォルダ名です。 タイトル行をドラッグすることで各情報の表示順を変えたり、表示幅を変更することができます。
⑩	**キャプチャボタン**	キャプチャリストに登録された情報でキャプチャを開始します。キャプチャ開始時に、リスト内のキャプチャ項目の検査もします。
⑪	**モード切り替えボタン**	「DVキャプチャモード設定」画面を表示します。 （【モード切り替えボタン】19ページ参照）
⑫	**キャプチャリスト情報**	キャプチャ項目登録数、全項目をキャプチャすると仮定した場合の総キャプチャ時間を表示します。

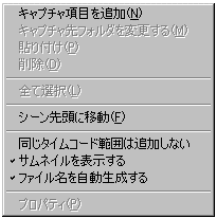
参考

キャプチャリスト項目を選択した状態でメインフレームウィンドウの編集メニューでの切り取り・コピー・貼り付けを使って、キャプチャ項目を追加・削除することもできます。

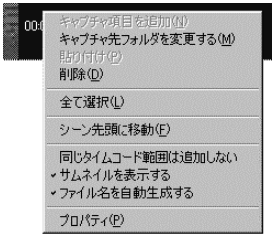
キャプチャリストのメニュー

キャプチャリスト内で右クリックすると、以下のようなメニューが表示されます。クリック位置で使用できる機能が異なります。

●キャプチャ項目がない箇所で右クリック



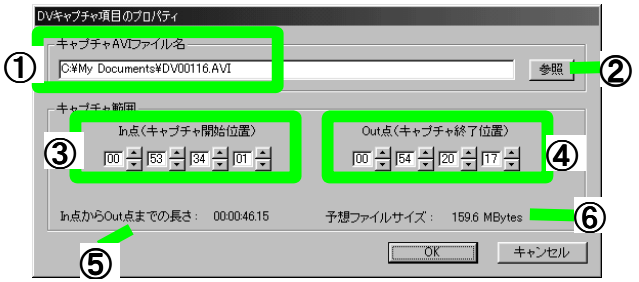
●キャプチャ項目上で右クリック



メニュー項目	機能
キャプチャ項目を追加	「DVキャプチャ項目の追加」画面を表示し、キャプチャ項目を追加することができます。
キャプチャ先フォルダを変更する	選択しているキャプチャ項目のキャプチャ先フォルダ名を変更することができます。
貼り付け	メディアビュー上でコピーしたキャプチャ項目をを貼りつけます。
削除	選択しているキャプチャ項目を削除します。
全て選択	キャプチャリスト内の全てのキャプチャ項目を選択状態にします。
シーン先頭に移動	その時点で選択しているシーンのIn点へメディア位置を移動させます。
同じタイムコード範囲は追加しない	キャプチャリストに項目を追加する際、既にリスト中に同じ範囲のタイムコードが設定された項目が存在している時には項目追加を行いません。
サムネイルを表示する	キャプチャリストに開始と終了のサムネイル画像を表示します。ただし、サムネイル画像が表示されるのはメディアビューのシーンリストから登録された項目のみで、それ以外のときは黒一色です。
ファイル名を自動生成する	［範囲を追加］ボタンでキャプチャ項目を追加した後、次のキャプチャ先ファイル名を自動的に設定するようになります。
プロパティ	「DVキャプチャ項目のプロパティ」画面を表示します。（次ページ参照）

項目データの確認・修正

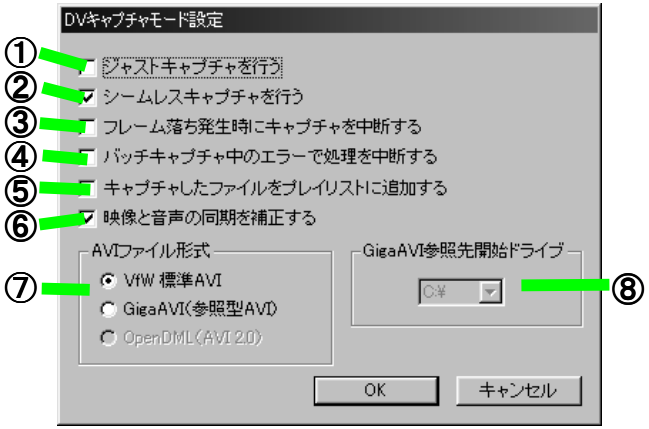
キャプチャ項目を右クリックしてメニュー内の「プロパティ」を選択、あるいはキャプチャ項目をダブルクリックすると、そのキャプチャ項目のデータの確認・修正を行うことができます。右クリックしたメニュー内の「キャプチャ項目を追加」を選択した場合には、ファイル名以外のデータが何も設定されていない画面が表示されます。



No.	項目	機能
①	**キャプチャ先AVIファイル**	このキャプチャ項目をキャプチャした場合、設定されるAVIファイルのファイルパス名を指定します。
②	**参照ボタン**	キャプチャ先AVIファイルを選択するためのファイル選択画面を開きます。
③	**In点（キャプチャ開始位置）**	この項目のキャプチャ開始点をタイムコード形式で指定します。
④	**Out点（キャプチャ終了位置）**	この項目のキャプチャ終了点をタイムコード形式で指定します。Out点無制限指定のされたキャプチャ項目の場合は設定できません。
⑤	**In点からOut点までの長さ**	現在設定されているIn点とOut点の間の時間の長さをタイムコード形式で表示します。キャプチャ範囲無制限の場合は「無制限」と表示されます。
⑥	**予想ファイルサイズ**	現在設定されているIn点とOut点の間をキャプチャした場合に生成されるAVIファイルの予想ファイルサイズを表示します。キャプチャ範囲無制限指定の場合は「不確定」と表示されます。

モード切り替えボタン

「モード切り替え」ボタンをクリックすると、以下の「DVキャプチャモード設定」画面が表示されます。



No.	項目	機能
①	**ジャストキャプチャを行う**	チェックを付けると、DV機器からのキャプチャ処理時に正確な位置でキャプチャを行います。（GV-DVC3/CB取扱説明書97ページ参照）ジャストキャプチャとは、キャプチャ開始時のメディア位置から１フレームの誤差もなくキャプチャを開始する機能です。
②	**シームレスキャプチャを行う**	チェックを付けると、DV機器からのキャプチャ処理時にシームレスキャプチャを行います。（83ページ参照）シームレスキャプチャとは、ファイルとファイルの間を１フレームの途切れもなくキャプチャを続行する機能です。
③	**フレーム落ち発生時にキャプチャを中断する**	チェックを付けると、DV機器からのキャプチャ処理中に１フレームでもキャプチャし損なった場合、直ちにキャプチャ処理を終了します。
④	**バッチキャプチャ中のエラーで処理を中断する**	チェックを付けると、DV機器からのバッチキャプチャ処理中にディスク入出力エラーやコピープロテクション信号の検出以外のエラー（音声記録周波数変更の検出）が発生した場合にもバッチキャプチャ処理を中断します。

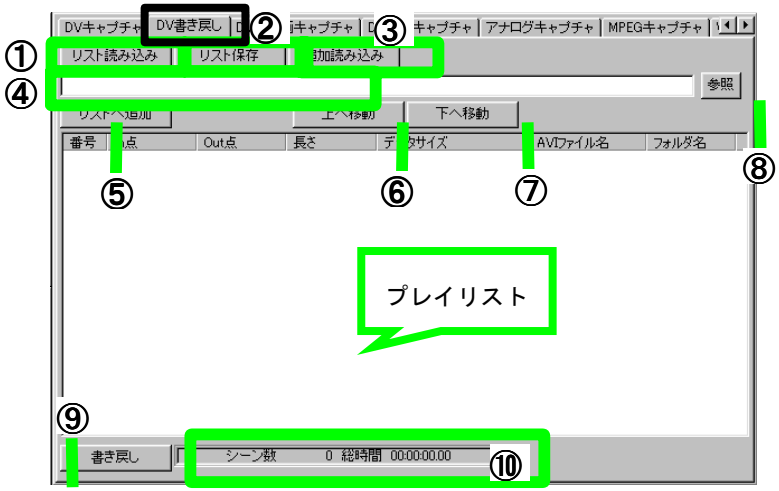
No.	項目	機能
⑤	**キャプチャしたファイルをプレイリストに追加する**	チェックを付けると、キャプチャしたファイルをプレイリスト（DV書き戻しのリスト）に追加登録します。
⑥	**映像と音声の同期を補正する**	チェックを付けると、映像と音声の同期をとりながら、キャプチャを行います。
⑦	**AVIファイル形式**	**＜VfW標準AVI＞** チェックを付けると、キャプチャ先AVIファイルの形式としてVfW（Video for Windows）標準AVIファイルを選択します。（82ページ参照） **＜GigaAVI（参照型AVI）＞** チェックを付けると、キャプチャ先AVIファイルの形式としてGigaAVI形式を選択します。（82ページ参照） **＜OpenDML（AVI2.0）＞** チェックを付けると、キャプチャ先AVIファイルの形式としてOpenDML形式を選択します。 現在のバージョンでは常に無効となっています。
⑧	**GigaAVI参照先開始ドライブ**	ここでGigaAVIの参照先データファイルの格納を開始するドライブを指定します。「GigaAVI（参照型AVI）」にチェックが付いていない場合は無効です。 **※参照先ドライブは、インデックスファイルとは別ドライブにすることをおすすめします。**

ファンクションパネル（DV書き戻し）

注意

・本製品を利用しての、パソコンからDV、D-VHS機器への書き戻しについては動作保証外です。以下の機能はお客様の責任でご利用ください。

［DV書き戻し］タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。DVメディアへの書き戻しを行う際に使用されるプレイリストを設定するパネルです。複数のAVIファイルを書き戻しする際の書き戻し順序を指定します。書き戻す項目は、エクスプローラからAVIファイルをドラッグして登録するか、［参照］ボタンを押してファイル名を指定し、［リストへ追加］ボタンをクリックして登録します。



No.	ボタン・項目	機能
①	**リスト読み込みボタン**	あらかじめ保存しておいた「プレイリストファイル」を読み込み、プレイリストに表示します。 初期設定時のフォルダは、My Documentsフォルダです。プレイリストファイルの拡張子は「PLS」です。
②	**リスト保存ボタン**	現在表示中のプレイリスト項目を「プレイリストファイル」として保存します。 初期設定時のフォルダは、My Documentsフォルダです。プレイリストファイルの拡張子は「PLS」です。

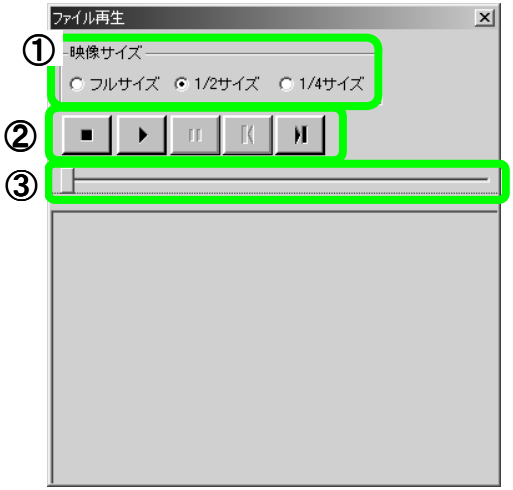
No.	ボタン・項目	機能
③	**追加読み込みボタン**	別のプレイリストファイルを読み込み、現在表示中のプレイリストの項目に追加します。
④	**ファイル名エディットボックス**	ここにファイル名を指定し、以下の「⑤リストへ追加ボタン」で項目を追加することができます。（ファイルは既に存在するファイル名を指定する必要があります。）
⑤	**リストへ追加ボタン**	ファイル名エディットボックスで指定されているAVIファイルをプレイリストに追加します。ただし、もしプレイリストに既にプレイリスト項目が指定されていた場合には、それらのAVIファイルの音声記録周波数とAVIファイル形式が一致していなければプレイリストに追加することはできません。
⑥	**上へ移動ボタン**	その時点に選択していたプレイリスト項目の位置を１つ分上に移動させます。
⑦	**下へ移動ボタン**	その時点に選択していたプレイリスト項目の位置を１つ分下に移動させます。
⑧	**参照ボタン**	ファイル名エディットボックスに表示するファイルを選択します。
⑨	**書き戻しボタン**	プレイリストに登録された情報で書き戻しを開始します。
⑩	**プレイリスト情報**	プレイリストの情報をリアルタイムに反映した形で表示します。表示される情報は、書き戻し項目登録数、全項目を書き戻すと仮定した場合の総時間です。

参考

プレイリスト項目を選択した状態でメインフレームウィンドウの編集メニューでの切り取り・コピー・貼り付けを使って、DVメディアプレイリスト項目を追加・削除することもできます。

AVIデータの再生・確認

プレイリストを右クリックしてメニュー内の[AVIファイルを再生]をクリック（もしくは、プレイリスト項目をダブルクリック）すると、そのプレイリスト項目のAVIファイルを再生し、映像を実際に確認することができます。



No.	ボタン・項目	機能
①	**映像サイズ**	映像の再生サイズを変更します。 フルサイズ：720×480ピクセルのサイズに変更 1/2サイズ　：360×240ピクセルのサイズに変更 1/4サイズ　：180×120ピクセルのサイズに変更
②	**各種コントロールボタン**	AVIファイルの再生をコントロールします。 左から順に、停止、再生、一時停止、フレーム戻し、フレーム送りを行うボタンです。
③	**シークスライダーバー**	現在の再生AVIファイルの再生位置を設定・表示するスライダーバーです。 スライダーの左端がファイル先頭フレーム、右端がファイル終端フレームを意味します。 スライダーバーをドラッグして移動することによって、ファイル先頭から終点までの任意の位置を選択できます。

項目データの確認・修正（トリミング）

プレイリスト項目を右クリックしてメニュー内の[プロパティ]を選択すると、そのプレイリスト項目の書き戻し範囲の確認・修正を行うことができます。

開始位置と終了位置を調節して、前後の余計な部分を切り取って書き戻すことができます。（トリミング機能）開始位置は終了位置よりも後には指定できません。また、終了位置は開始位置より前に指定することはできません。

※トリミング設定は、実際のAVIファイル自体には影響を与えません。

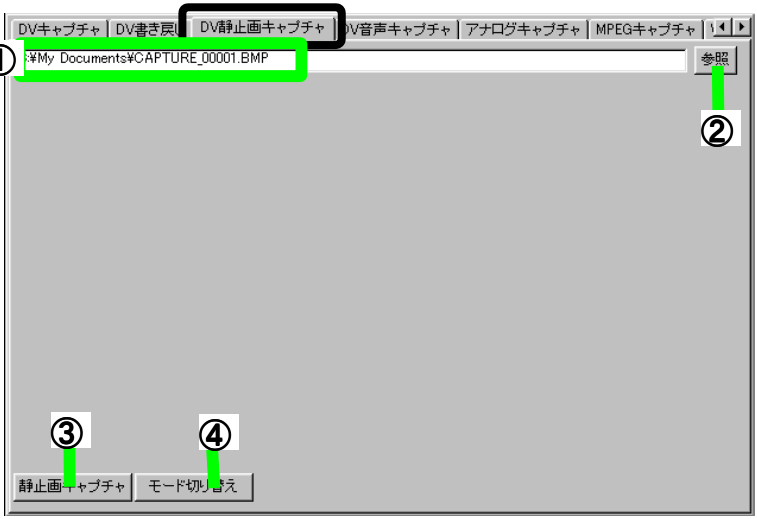
No.	ボタン・項目	機能
①	**In点にマーク**	トリミングスライダーの現在の位置をIn点として登録します。
②	**Out点にマーク**	トリミングスライダーの現在の位置をOut点として登録します。
③	**In点からOut点までの長さ**	AVIファイルの再生時間をタイムコード形式で表示します。既にトリミングが成されている場合は、その状態での再生時間を表示します。

プレイリスト項目を右クリックしたメニュー内の[AVIファイルを追加]を選択した場合、あるいはリスト余白部分をダブルクリックした場合には、ファイルを選択できる画面が表示されます。

項目	機能
AVIファイル	このプレイリスト項目で再生するAVIファイルのファイルパス名を指定します。

ファンクションパネル（DV静止画キャプチャ）

[DV静止画キャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。DV機器から静止画をキャプチャする際に使用するパネルです。



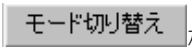
No.	ボタン・項目	機能
①	**ファイル名エディットボックス**	キャプチャした静止画を保存するファイル名です。「ファイル名を自動生成する」モード（次ページ参照）になっていた場合には「CAPTURE_00001.BMP」から始まり、後半の五桁整数値を自動的に加算していきます。
②	**参照ボタン**	ファイル名エディットボックスに表示するファイルを選択します。
③	**静止画キャプチャボタン**	クリックした時点でプレビューウィンドウに表示されている画像を720x480 24bitRGBカラーの画像として保存します。
④	**モード切り替えボタン**	[静止画キャプチャ設定]画面を表示します。（次ページ参照）

連続キャプチャする場合の設定

静止画キャプチャパネル上で右クリックすると、以下のメニューが表示されます。

[ファイル名を自動生成する]にチェックすると、静止画ファイルキャプチャ時には「CAPTURE_00001.BMP」から始まり、後半の五桁整数値を自動的に加算したファイル名を新しく設定します。
チェックした場合、「ファイル名エディットボックス」は無効になります。

モード切り替えボタン



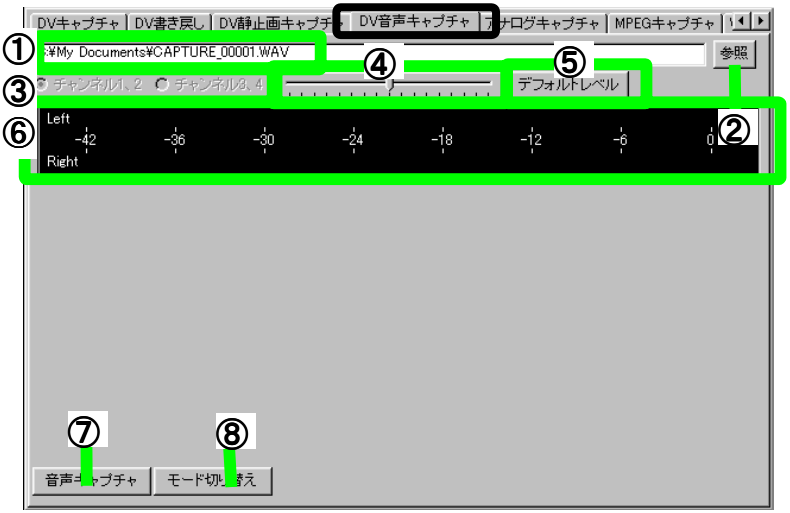
ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。

※通常は、変更する必要はありません。

項目	機能
ITU-R BT.601準拠の色空間変換を行う	チェックを付けると、DVデータを静止画像に変換する際の色空間変換方式を「ITU-R BT.601規格」に準拠するようにします。
インターレース解除処理を行う	DVのインターレース方式の画像をノンインターレース方式に近い画像に変換します。

ファンクションパネル（DV音声キャプチャ）

[DV音声キャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。DV機器から音声のみをキャプチャする際に使用するパネルです。



No.	ボタン・項目	機能
①	**ファイル名エディットボックス**	キャプチャした音声を保存するファイル名です。[ファイル名を自動生成する]モード（次ページ参照）になっていた場合には「CAPTURE_00001.WAV」から始まり、後半の五桁整数値を自動的に加算していきます。
②	**参照ボタン**	ファイル名エディットボックスに表示するファイルを選択します。
③	**チャンネル選択**	キャプチャするチャンネルを選択します。
④	**ボリュームレベル**	キャプチャする音声のボリュームレベルを指定します。つまみを右方向にスライドすると大きくなります。左方向にスライドすると小さくなります。
⑤	**デフォルトレベルボタン**	キャプチャする音声のボリュームレベルをデフォルト値に戻します。
⑥	**音声レベル**	プレビューウィンドウで再生中のときやキャプチャ中のとき、音声のレベルを表示します。

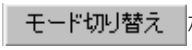
No.	ボタン・項目	機能
⑦	**音声キャプチャ ボタン**	音声キャプチャを開始します。
⑧	**モード切り替え ボタン**	[DV音声キャプチャモード設定]画面を表示します。

連続キャプチャする場合の設定

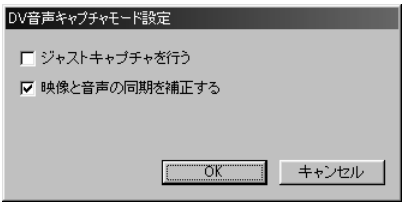
音声キャプチャパネル上で右クリックすると、以下のメニューが表示されます。

[ファイル名を自動生成する]にチェックすると、音声キャプチャ時には「CAPTURE_00001.WAV」から始まり、後半の五桁整数値を自動的に加算したファイル名を新しく設定します。チェックした場合、「ファイル名エディットボックス」は無効になります。

モード切り替えボタン



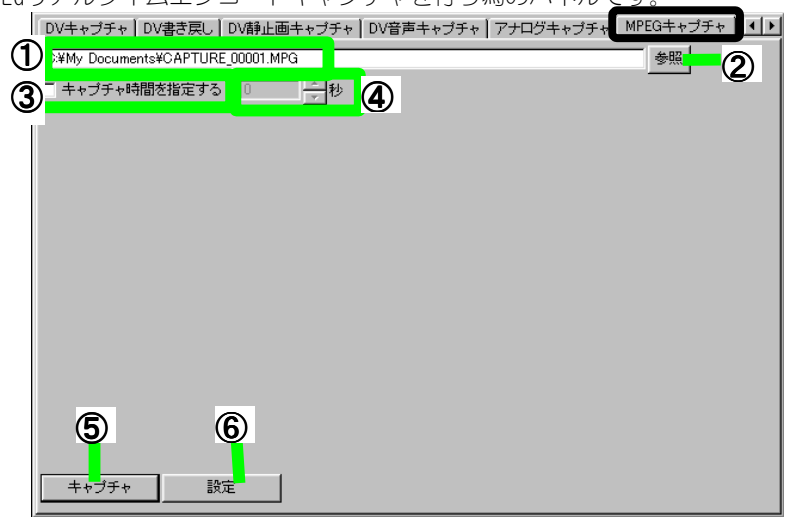
ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。



項目	機能
ジャストキャプチャを行う	チェックを付けると、DV機器からのキャプチャ処理時にジャストキャプチャを行います。 ジャストキャプチャとは、キャプチャ開始時のメディア位置から１フレームの誤差もなくキャプチャを開始する機能です。
映像と音声の同期を補正する	チェックを付けると、映像と音声の同期をとりながら、キャプチャを行います。通常はチェックを付けておいてください。

ファンクションパネル（MPEGキャプチャ）

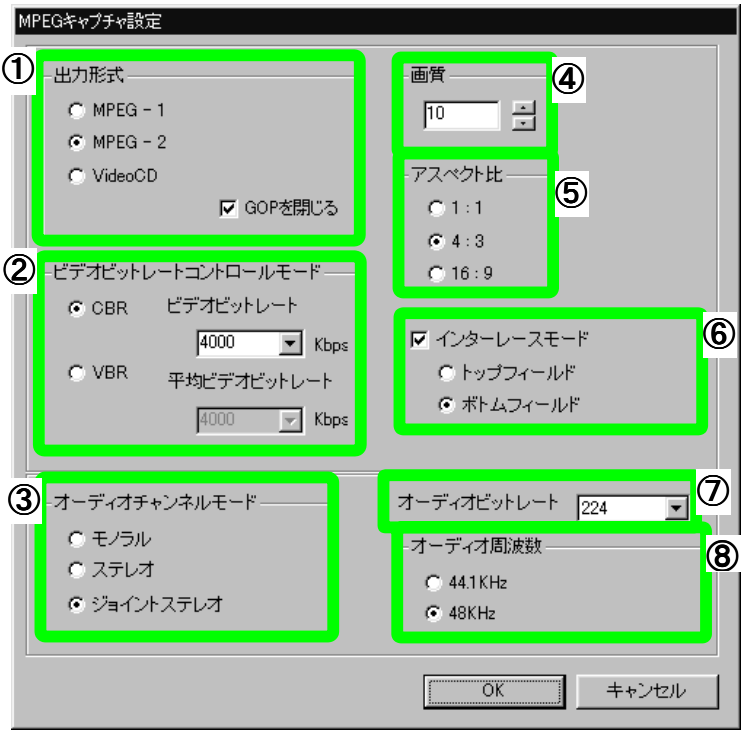
[MPEGキャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。
MPEGリアルタイムエンコードキャプチャを行う為のパネルです。



No.	ボタン・項目	機能
①	**ファイル名エディットボックス**	キャプチャするMPEGファイルの保存先、名称を指定します。
②	**参照ボタン**	ファイル名エディットボックスに表示するファイルを選択します。
③	**キャプチャ時間を指定する**	チェックを付けると、キャプチャ時間を指定することができます。指定した時間に達すると自動的にキャプチャを終了します。また、最大キャプチャ時間指定エディットボックスと最大キャプチャ時間指定スピンボタンコントロールが有効になります。
④	**最大キャプチャ時間指定エディットボックス**	最大キャプチャ時間を指定します。単位は秒です。スピンボタンを操作すると、秒単位で最大キャプチャ時間を変更することができます。最大キャプチャ時間は99999秒です。
⑤	**キャプチャボタン**	キャプチャを開始します。
⑥	**設定ボタン**	このボタンをクリックすると、MPEGエンコードに関する詳細設定を行うダイアログが開きます。（次ページ）

MPEGキャプチャ設定

[MPEGキャプチャ]タブで、 設定 ボタンをクリックすると表示されます。MPEGエンコードに関する詳細な設定を行うことができます。



No.	ボタン・項目	機能
①	**出力形式**	MPEGエンコード形式を選択します。デフォルト設定はMPEG-2です。 **GOPを閉じる※**：チェックするとエンコード時に前後のGOPを参照せずにエンコードします。チェックしない場合、エンコード時に前後のGOPを参照してエンコードを行います。デフォルトではチェックされていません。

※ GOPを閉じるをチェックした場合、エンコード効率は悪くなりますが、各GOPを独立した単位として扱えるため、映像をすばやくシークしたり、編集時の画質劣化を抑えることができます。また、作成したMPEG-2ファイルからDVD-Videoを作成する場合は、GOPを閉じるを選択してください。

No.	ボタン・項目	機能
②	**ビデオビットレート コントロールモード**	MPEGビデオエンコード時のビットレートを指定します。デフォルトではCBRが選択されています。 **＜CBR＞** チェックを入れると、ビットレートを、ビデオビットレートで指定された数値で固定します。 **＜VBR＞** チェックを入れると、ビットレートを、指定された範囲で変化させます。 **＜ビデオビットレート＞** MPEGビデオエンコード時のビットレートを設定します。CBRチェック時は、このコントロールの名前は「ビデオビットレート」となりますが、VBRチェック時は「最大ビットレート」となります。 リスト中の数値からビットレートを選択するか、直接入力して指定します。ビデオビットレートコントロールがVBRの場合、平均ビデオビットレート選択ドロップダウンリストで選択されている数値よりも小さい数値を指定することはできません。直接入力時に受け付ける最低ビットレートは250Kbps、最高ビットレートは15000Kbpsです。デフォルト設定は4000Kbpsです。 **＜平均ビデオビットレート＞** MPEGビデオエンコード時の平均ビットレートを設定します。VBRにチェックを入れた場合のみ設定可能です。 リスト中の数値からビットレートを選択するか、直接入力して指定します。 ビデオビットレートコントロールがVBRの場合、最大ビデオビットレート選択ドロップダウンリストで選択されている数値よりも大きい数値を指定することはできません。直接入力時に受け付ける最低ビットレートは250Kbps、最高ビットレートは15000Kbpsです。

No.	ボタン・項目	機能
③	**オーディオチャンネルモード**	MPEGオーディオエンコード時のチャンネルモードを選択します。ジョイントステレオとは左右の音の差をデータ化し、擬似的に2チャンネル分の音を作り出す方式のことで、ステレオよりもデータ量を少なくすることができますが、音質は悪くなります。
④	**画質**	MPEGビデオエンコード時の画質を設定します。 1～20の数値で設定し、大きな数値ほど高画質になりますが、エンコードにかかるCPU負荷が上がります。 デフォルト値は10です。
⑤	**アスペクト比**	MPEGビデオエンコード時のソース映像のアスペクト比を設定します。
⑥	**インターレースモード**	MPEGファイルを表示する場合、インターレースモード（走査線を交互に表示）方式をとっています。 例えば、縦480ラインの場合、上から1番目、2番目、3番目、…479番目、480番目とする場合、1番目、3番目、5番目…479番目のラインをトップフィールド。 2番目、4番目…480番目のラインをボトムフィールドといいます。 ここでは、トップかボトムかどちらを先に表示させるかを設定します。デフォルトではボトムフィールドにチェックが入っています。DVから入力される信号はボトムフィールドが先行して表示されますので、通常は変更しないでください。
⑦	**オーディオビットレート**	MPEGオーディオエンコード時のビットレートを設定します。
⑧	**オーディオ周波数**	MPEGオーディオエンコード時の周波数を設定します。

参考

DVworksがMPEGキャプチャを行う際に、バッファリングを行う場所と、そのファイル名は以下の通りです。なおバッファリングを行うハードディスクの容量が足りなくなった場合、キャプチャは自動的に途中で終了し、エンコードが開始されます。

■Windows 98 SE/Meの場合　C:¥Windows¥Temp下の「gmdv2mpg.xxxx」ファイル群
（xxxxには任意の数字が入ります。）

■Windows XP/2000の場合　C:¥Documents and Settings¥(ユーザー名)¥Local Settings¥Temp下の「gmdv2mpg.xxxx」ファイル群
（xxxxには任意の数字が入ります。）

通常、MPEGキャプチャ終了時点でバッファリングファイルは削除されます。もし、何らかのトラブルによってバッファリングファイルが削除されずに残ってしまった場合これらのファイルを手動で削除してください。

ファンクションパネル（WMVキャプチャ）

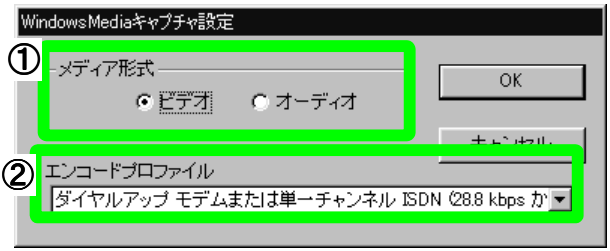
[WMVキャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。Windows Media Video(WMV)形式でリアルタイムエンコードキャプチャを行う為のパネルです。

No.	ボタン・項目	機能
①	**ファイル名エディットボックス**	キャプチャするWMVファイルの保存先、名称を指定します。
②	**参照ボタン**	キャプチャ先ファイル名を指定する為のファイル選択ダイアログを開きます。
③	**キャプチャ時間を指定する**	このチェックボックスにチェックを付けると、キャプチャ時間を指定することができます。指定した時間に達すると自動的にキャプチャを終了します。チェックを入れると最大キャプチャ時間指定エディットボックスと最大キャプチャ時間指定スピンボタンコントロールが有効になります。
④	**最大キャプチャ時間指定エディットボックス**	最大キャプチャ時間を指定します。単位は秒です。このスピンボタンを操作すると、秒単位で最大キャプチャ時間を変更することができます。 最大キャプチャ時間は99999秒です。

⑤	**キャプチャボタン**	キャプチャを開始します。
⑥	**設定ボタン**	クリックすると、WMVエンコードに関する詳細設定を行うダイアログが開きます。

WindowsMediaキャプチャ設定

[WMVキャプチャ]タブで、 設定 ボタンをクリックすると表示されます。WMVエンコードに関する詳細な設定を行うことができます。



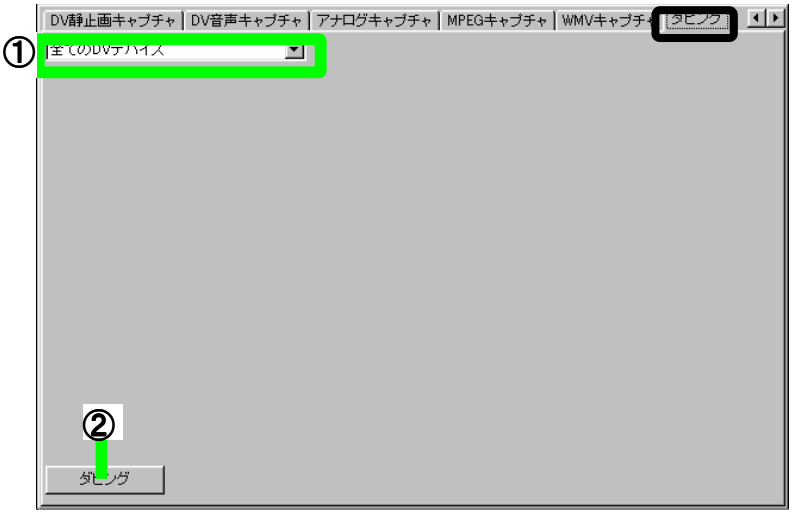
No.	ボタン・項目	機能
①	**メディア形式**	エンコード形式を選択します。デフォルト設定はビデオです。 **<ビデオ>** Windows Media Video形式でエンコードします。 **<オーディオ>** Windows Media Audio形式でエンコードします。 ※[メディア形式]でオーディオをチェックした場合は[エンコードプロファイル]も[…オーディオ]と表示されるオーディオ用のものを選択してください。
②	**エンコード プロファイル**	エンコードするファイルの形式を選択します。 ※ ビットレートが大きい形式ほど、フレーム落ちが発生しやすくなります。

ファンクションパネル（アナログキャプチャ）

[アナログキャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。このタブは、本製品では使用しません。

ファンクションパネル（ダビング）

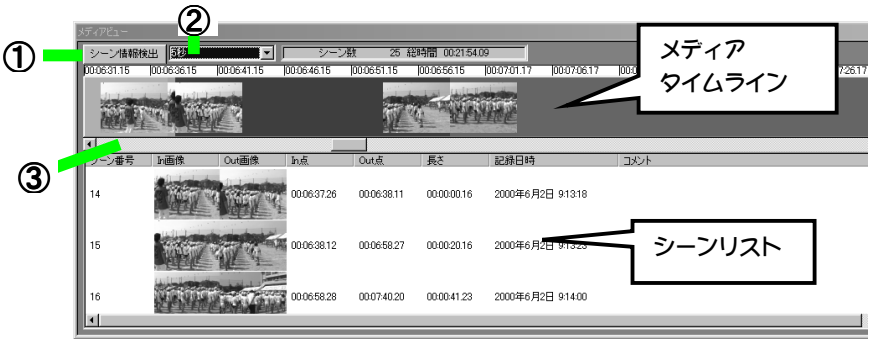
[ダビング]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。DV機器同士でダビングを行う際に使用するパネルです。



No.	ボタン・項目	機能
①	**録画DVデバイス**	録画先のDVデバイスを選択する為のドロップダウンリストです。 デフォルトで選択されているのは「全てのDVデバイス」です。 「全てのDVデバイス」は、現在コントロール中のDVデバイス以外の全てのDVデバイスを意味します。
②	**ダビングボタン**	ボタンをクリックすると、現在コントロール中のDVデバイスから「録画DVデバイス」で選択したDVデバイスに対して映像のダビングを開始します。 再生DVデバイス、録画DVデバイス共に、その時点でのメディア位置から再生・録画を開始します。

メディアビュー

メディアの内容を、シーンのIn/Out点をサムネイル画像等で表示します。シーンはシーンリスト上でIn/Out点のタイムコードに従って順番に1から始まる通し番号が付けられます。



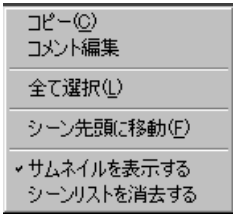
参考

・サムネイル画像とは、メディアタイムライン上での動画データの画像サンプルを縮小表示したものです。サムネイルの基本サイズは80x60です。
・メディアタイムライン上のシーンは、順に以下のように色分けされて表示されます（青→紫→赤→橙→黄→緑→水色　　以後、青に戻る）。

No.	ボタン・項目	機能
①	**シーン情報検出**	［シーン検出］画面を表示し、シーンの検出を行います。（【シーン情報検出ボタン】40ページ参照）
②	**スケール切り替え**	メディアタイムラインの表示縮尺を変更します。検出する映像に合わせて指定してください。 （初期設定は１秒30フレーム）
③	**横スクロールバー**	メディアタイムラインの表示位置を変更します。スクロールバーの１単位量がタイムラインスケールに相当します。例えば、タイムラインスケールが30(fps)の時にスクロールバーを１単位量移動させると、タイムライン表示は30フレーム移動します。

シーンリストのメニュー

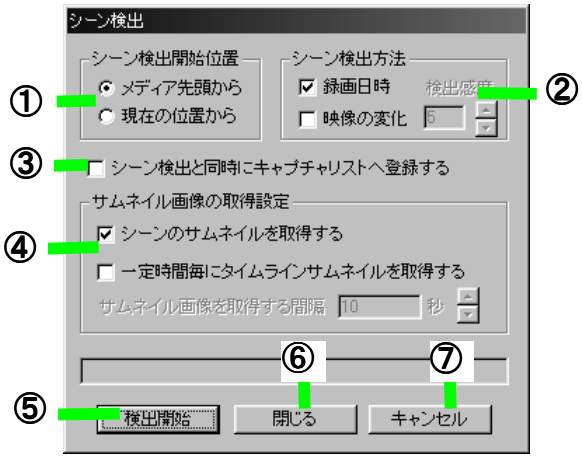
シーンリスト項目の右クリックで以下のメニューが表示されます。



項目	機能
コピー	その時点で選択されているシーン項目がDVworksシーンインデックスデータとしてクリップボードにコピーされます。コピーされたシーン項目はキャプチャリストを右クリックし、メニュー内の［貼り付け］をクリックして登録できます。
コメント編集	以下の画面が開き、選択シーンのコメントを編集することができます。
全て選択	その時点でシーンリストに登録されている全てのシーンが選択状態となります。
シーン先頭に移動	その時点で選択しているシーンのIn点へメディア位置を移動させます。
サムネイルを表示する	チェックを付けると、シーンリストのカラムに「In点画像」「Out点画像」が追加され、このカラムに対応するシーンのIn点のサムネイル画像、Out点のサムネイル画像が表示されます。
シーンリストを消去する	シーンリストの項目全てを削除し、シーンリストおよびキャプチャリストを初期化します。

シーン情報検出ボタン

シーン情報検出 ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。



No.	項目	機能
①	**シーン検出開始位置**	**メディア先頭から始める** シーンの検出をメディアの先頭から開始します。シーン検出開始時にメディア位置がメディア先頭でない場合、自動的にメディアの巻き戻しを行います。 **現在の位置から始める** 現在のメディア位置からシーンの検出を開始します。
②	**シーン検出方法**	**録画日時** 録画ボタンを押した部分から録画日時の情報を読み取り、録画日時が1秒以上飛んでいる部分をシーンの切れ目と判断します。標準で設定されているシーン検出方法です。 **映像の変化** チェックを付けると、映像に大きな変化（色合い・明るさ等）があった場合、その部分をシーンの切れ目と判断します。検出感度を高くすればするほど、変化を検出しやすくなります。

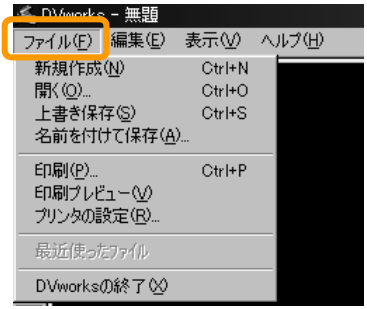
No.	項目	機能
③	**シーン検出と同時にキャプチャリストへ登録する**	チェックを付けると、シーンを検出した時点でそのシーンをキャプチャリストへも登録します。
④	**サムネイル画像の取得設定**	**シーンのサムネイルを取得する** チェックを付けると、シーンのIn・Out点の１フレーム分の画像をサムネイルとして取得します。 **一定時間毎にサムネイルを取得する** チェックを付けると、シーンのIn・Out点の画像だけでなく、以下の[サムネイル画像を取得する間隔]で指定された時間毎にサムネイル画像を取得します。 **サムネイル画像を取得する間隔** 一定時間毎にサムネイルを取得する場合の時間間隔を指定します。単位は秒です。
⑤	**検出開始**	シーンの検出を開始します。処理中は［キャンセル］ボタンをクリックすれば中断できます。
⑥	**閉じる**	現在の[シーン検出]画面の設定を保存してから画面を閉じます。
⑦	**キャンセル**	[シーン検出]画面の設定を[シーン検出]画面を開いた時点に戻してから、画面を閉じます。

メニュー

DVworksには、［ファイル］、［編集］、［表示］、［ヘルプ］の４つのメニューがあります。

［ファイル］メニュー

[ファイル]メニューは、プロジェクトファイルの新規作成、保存等を行うための項目があります。プロジェクトファイルとは検出したシーン情報やキャプチャリスト、プレイリストなどの内容を保存しておくファイルのことです。プロジェクトを保存しておくことにより、作業を中断したときでも、すぐに再開することができます。



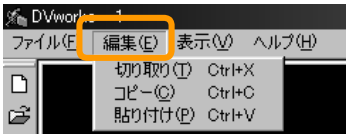
メニュー項目	機能
新規作成	新規のプロジェクトを開きます。アイコンメニューの と同じです。
開く	指定したプロジェクトファイルを開くことができます。アイコンメニューの と同じです。
上書き保存	現在編集中のプロジェクトの内容を上書き保存します。アイコンメニューの と同じです。
名前を付けて保存	現在編集中のプロジェクトの内容を、新しい名前を付けたプロジェクトファイルへと保存します。

メニュー項目	機能
印刷	現在のメディアタイムラインの内容を印刷します。 印刷される内容は、メディアタイムラインに保持されているメディアのインデックス情報・クリップIn/Out点情報・クリップ長・In/Out点サムネイル画像をリストにしたものです。
印刷プレビュー	実際に印刷されるイメージのプレビュー画像を表示します。
プリンタの設定	プリンタの設定画面でプリンタの設定を行います。
DVworksの終了	DVworksを終了します。 何の変更も加えられていないプロジェクトが開かれているならば、そのまま終了します。 編集中のプロジェクトが開かれているならば、そのプロジェクトの保存を行うかどうかを確認してからDVworksを終了します。

［編集］メニュー

編集メニューでの編集操作対象となるアイテムは、以下の通りです。

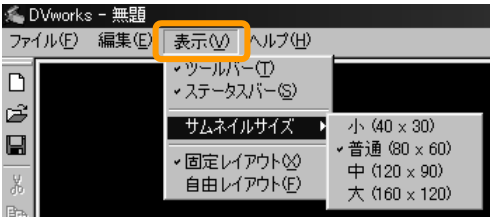
- バッチリスト項目
- プレイリスト項目
- シーンリスト項目



メニュー項目	機能
切り取り	現在選択されている項目をクリップボード上にコピーし、選択された項目自体は削除します。 切り取りの対象とならない項目が選択されている場合、このメニュー項目は無効化されます。
コピー	現在選択されている項目をクリップボード上にコピーします。 コピーの対象とならない項目が選択されている場合、このメニュー項目は無効化されます。
貼り付け	現在選択されている項目にクリップボードの内容を転送します。貼り付けの対象とならない項目が選択されている場合、このメニュー項目は無効化されます。

［表示］メニュー

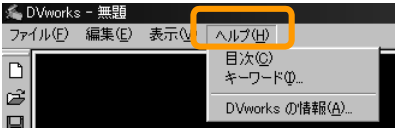
ツールバー、ステータスバーの表示・非表示を選択します。チェックマークの付いている項目が選択済みです。



メニュー項目	機能
ツールバー	ツールバー（標準では、DVworksウィンドウ左端にドッキングし、アイコンの並んでいるバー）の表示・非表示を選択します。
ステータスバー	ウィンドウ下端のステータスバーの表示・非表示を選択します。
サムネイルサイズ	メディアビュー・キャプチャリスト・プレイリストのサムネイルサイズを、小（40×30）、普通（80×60）、中（120×90）、大（160×120）から選択します。
固定レイアウト	DVworksウィンドウレイアウトを標準のものに固定します。
自由レイアウト	DVworksウィンドウレイアウトを自由に変更できるようにします。

［ヘルプ］メニュー

ヘルプに関するメニューを表示します。



メニュー項目	機能
目次	ヘルプの目次を表示します。
キーワード	ヘルプのキーワード入力画面を表示します。
DVworksの情報	DVworksのバージョン情報などを表示します。

トラブルシューティング

困ったときには

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

なお、ここでは『DVworks』使用時のトラブルと対処方法を中心に説明しています。本製品添付のサービス品ソフトウェアをお使いの場合は、GV-DVC3/CB取扱説明書11ページ「サービス添付品のお問い合わせ先」を参照してください。

注意

本製品を利用してのパソコンからDV機器、D-VHS機器への書き戻しについては動作保証外です。書き戻しに関するトラブルシューティングは参考情報としてご利用ください。書き戻しについてのお問い合わせはご対応いたしかねますのでご了承ください。

＜DV機器接続時＞

状態	参照ページ
『DVworks』がDV機器を認識しない（デバイスマネージャの確認で[イメージングデバイス]が表示されない）	49

＜プレビュー時＞

状態	参照ページ
「プレビューウィンドウ」自体が表示されない	51
「プレビューウィンドウ」に映像が表示されない	
「プレビューウィンドウ」が異常表示されたり、エラーメッセージが表示される	52
「プレビューウィンドウ」の映像がぎこちない	
「プレビューウィンドウ」の映像が荒い	53
最大デコードサイズを変更しても反映されない	54
プレビュー時に音がでない	

＜DV機器コントロール時＞

状態	参照ページ
DV機器のコントロールができない	55
DVメディアを最初まで巻き戻したのに、タイムコードの表示が「00:00:00:00」にならない	
バッチキャプチャの自動頭出し処理で、指定したプリロールタイム以上にテープが送られてしまうことがある	56
１フレームずつフレーム送り・戻しをしていても、タイムコードの値が飛ぶことがある	
DV機器上で表示されているタイムコードとDVworks上で表示されているタイムコードが一致しない	57
DV機器がおかしな動きをする	

＜キャプチャ時、書き戻し時＞

状態	参照ページ
キャプチャしたAVIファイルがフレーム落ちしている 書き戻したビデオ画像がフレーム落ちしている	58
シーンキャプチャでシーンの検出が行われない	59
キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が終了してしまう	
DVメディアからDVストリームをAVIファイルへキャプチャできない	60
AVIファイルをDVメディアに書き戻せない	
書き戻し時にエラーメッセージが出たり、映像が正しく書き戻せない	61
キャプチャしたAVIファイルに音声が記録されていない	62
キャプチャしたAVIファイルをメディアプレーヤで再生すると、エラーが発生したり真暗な画面が再生されたりする	
キャプチャしたMPEGファイルをメディアプレーヤで再生しても映像や音声が出力されない	
『MediaStudio Pro』で「スマートレンダリング」を行って作成したAVIファイルを、DV機器に書き戻ししようとすると、音声が途切れてしまう	63
キャプチャしたAVIファイルをメディアプレーヤで再生すると、音声が途切れてしまう	
キャプチャしたWMVファイルをメディアプレーヤで再生しても、映像や音声が出力されない	
キャプチャした映像にノイズ、音飛び等が発生する	73

＜キャプチャ時、書き戻し時（D-VHS機器のみ）＞

状態	参照ページ
キャプチャを開始したのに、キャプチャ先のファイルが0バイトのままになってしまう	64
キャプチャ中に「入力ストリームエラーが発見されました。キャプチャ処理を中断します。」というダイアログが表示され、処理が中断する	
書き戻しを開始できない	
書き戻し開始時のマージンよりも長い間ウエイトしてしまう	65
書き戻しを行ったテープを再生しても映像が表示されない	
MPEGファイルを書き戻したテープを再生すると映像の動きがぎこちない	

<DV機器全般の問題>

状態	参照ページ
あるDV機器で録画したDVメディアが、別のDV機器で読み込めないことがある	66
本製品添付のアプリケーション以外のアプリケーションが、正常に動作しない	
Windowsを終了後、「Windows を終了しています」の表示のまま止まってしまう(Windows 98 SEの場合のみ)	

<ストレージ機器接続時>

状態	参照ページ
［SBP2］の表示がない(Windows Me/98 SEの場合のみ)	69
［SBP2 Compliant IEEE 1394 デバイス］の表示がない(Windows Me/98 SEの場合のみ)	
接続したストレージ機器が［デバイスマネージャ］の［ディスクドライブ］に表示されない	
ストレージ機器の取り外しの際に、［取り外しができません］と表示される	70
ストレージ機器の取り外しの際に、１分以上待っても、取り外し許可のメッセージが表示されない	

DV機器接続時

『DVworks』がDV機器を認識しない

DV機器の電源が入っていない

DV機器の電源を入れてください。

本製品とDV機器が正しくDVケーブルで接続されていない

DV機器が本製品に接続されていません。
DVケーブルで本製品とDV機器を正しく接続し直してください。

OSがDV機器の認識に失敗している

１度DV機器のDVケーブルを抜いてから再接続してみてください。

Windows起動後に、DV機器を接続してみてください。

DVworksをインストールする前に、DV機器を接続していたことが考えられます

DV機器を取り外した後、DVworksを一度削除（アンインストール）し、再度【『DVworks』をインストールする】（GV-DVC3/CB取扱説明書36ページ）を参照し、DVworksをインストールし直してみてください。
インストール後にDV機器を接続してください。

《アンインストール方法》

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
表示されている「DVworks」をクリックし、［追加と削除］ボタンをクリックしてください。
（Windows XPの場合は[スタート]→[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]をクリックし、表示されている「DVworks」をクリック後、［変更/削除］ボタンをクリックしてください。）
後は画面の指示に従ってください。

ドライバソフトが正常にインストールされていない	ドライバソフトを再インストールしてください。 **＜再インストール手順＞** ①デバイスマネージャの「1394バスコントローラ」（もしくは「1394バスホストコントローラ」）下の「Texas Instruments…」をクリックします。 ②削除ボタンで削除後、パソコンを一旦再起動します。 ③後は【ドライバをインストールする】（GV-DVC3/CB取扱説明書24ページ～。使用するOSに合わせて）を参照してドライバをインストールしてください。
以前のバージョンのDVworksで使用されていたドライバが認識されている	【確認しよう】（GV-DVC3/CB取扱説明書64ページ～。使用するOSに合わせて参照）を行います。イメージングデバイスに[Digital VCR]と表示されていたら、それを選択し、[削除]ボタンをクリックします。その後でケーブルを抜き差ししてください。
Windows 98からWindows Meにアップグレードしている場合、アップグレード時に1394ドライバがWindows Me用のものに更新されなかった可能性があります。	一旦、デバイスマネージャの「1394バスコントローラ」（もしくは「1394バスホストコントローラ」）下の「Texas Instruments…」を削除し、再度インストールしなおしてみてください。

プレビュー時

「プレビューウィンドウ」自体が表示されない

プレビューウィンドウが隠れている

[表示]メニューから[固定レイアウト]を選んでください。（44ページ参照）。

「プレビューウィンドウ」に映像が表示されない

グラフィックアクセラレータがDirectDrawオーバーレイに対応していない

お使いのグラフィックアクセラレータがDirectDrawおよびDirectDraw オーバーレイ機能に対応しているか、メーカーにご確認ください。

本製品とDV機器が正しくDVケーブルで接続されていない

再度、付属のケーブルを本製品やDV機器から抜き差ししてみてください。

DV機器の電源が入っていない

DV機器の電源を入れてください。

DVメディアの再生位置が正しくない

[コントロールウィンドウ]にある巻戻し、早送りボタンを使って、再生位置を合わせてください（10ページ参照）。

プレビュー設定で映像を再生しない設定になっている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、[映像を再生する]をチェックしてください（7ページ参照）。

「プレビューウィンドウ」が異常表示されたりエラーメッセージが表示される

グラフィックアクセラレータのオーバーレイ機能が正常に動作していない

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、[映像を再生する]のチェックを外してください（7ページ参照）。
この設定で（映像は表示されない）改善される場合は、以下の点を確認してください。

- グラフィックアクセラレータに新しいバージョンのドライバが提供されている場合は、そちらに更新してみてください。
- グラフィックアクセラレータのドライバをDirectX8以降対応のものに更新してみてください。
- Windowsの解像度・色数を低くしてみてください。
- プレビューウィンドウを右クリックし、[NTSC Half（360×240）]を選択（チェック）してみてください。（6ページ参照）
- 壁紙を右クリック→[プロパティ]→[画面のプロパティ]→[設定]→[詳細]→[パフォーマンス]を変更してください。
  （[最大]を推奨しますが、問題が生じる場合は、[基本]、もしくは[なし]にしてください。）

「プレビューウィンドウ」の映像がぎこちない

プレビューフレームレートが低く設定されている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、[フレームレート]をより高い値に設定してみてください（7ページ参照）。ただし、[フレームレート]を高くすると、マシンパワーが不足している場合は、キャプチャ処理などでフレーム落ちが発生する場合があります。

プレビューデコードサイズが大きく設定されている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、[最大デコードサイズ]をより低い値（水平180画素など）に設定してください（7ページ参照）。

マシンパワーが不足している

プレビュー画像のデコード処理は、ソフトウェアDV Codecによって行われています。マシンパワーが不足していると、プレビュー画像のフレーム落ち、キャプチャしたAVIファイルのフレーム落ちなどが発生する場合があります。

AVIキャプチャ中です

AVIキャプチャ中は、AVIファイルのフレーム落ちを防ぐ事を最優先に処理を行います。従って、プレビュー表示の動きが荒くなる場合があります。

DVメディア書き戻し中です

DVメディア書き戻し中は、出力DVストリームのフレーム落ちを防ぐ事を最優先に処理を行います。従って、プレビュー表示の動きが荒くなる場合があります。

「プレビューウィンドウ」の映像が荒い

プレビュー設定でプレビューデコードサイズが小さく設定されている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、[最大デコードサイズ]をより高い値（水平720画素など）に設定してください（7ページ参照）。ただし、[最大デコードサイズ]が大きいと、キャプチャ処理などでフレーム落ちが発生する場合があります。

シーン検出中である

シーン検出中は、パソコンへの負荷を軽減するため、表示が荒くなりますが、動作上問題はありません。

最大デコードサイズを変更しても反映されない

プレビューウィンドウが、NTSC Half（360×240）サイズの時に[水平720画素]を指定している

[最大デコードサイズ]の設定は、プレビューウィンドウの実サイズ（この場合は360画素）以上の大きさに指定しても効果はありません。
プレビューウィンドウサイズを大きく（NTSC Full：720×480）してください。

プレビュー時に音がでない

サウンドカードがインストールされていない

サウンドカードを正しくインストールしてください。

オーディオミキサーの WAVE 出力設定がミュートされている、もしくは音量が低くなっている

Windowsのボリュームコントロールを起動し、[WAVE]もしくは[ボリュームコントロール]のミュートにチェックが付いていないか確認します。チェックが付いていたら外してください。
[WAVE]もしくは[ボリュームコントロール]が表示されていない場合は［オプション］→［プロパティ］を表示し、[表示するコントロール]にチェックを付けて、表示してください。
※ ご利用のパソコンによって表示される画面は異なります。詳しくはご利用のサウンドカードの取扱説明書をご参照ください。

プレビュー設定で音声を再生しないようになっている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、[音声を再生する]をチェックしてください（7ページ参照）。

DV機器コントロール時

最大デコードサイズを変更しても反映されない

本製品とDV機器が正しくDVケーブルで接続されていない

再度、付属のケーブルを本製品やDV機器から抜き差ししてみてください。

DV機器がビデオ再生モードになっていない

DV機器のモードをビデオ再生モードに設定してください。

DV機器の電源が入っていない

DV機器の電源を入れてください。

DV機器が正しく認識されていない

[コントロールウィンドウ]の[Option]ボタンで、[DV機器の状態を無視する]および[カメラデバイス]をチェックしてください（12ページ参照）。

DVメディアを最初まで巻き戻したのにタイムコードの表示が「00:00:00.00」にならない

DV機器の仕様です

DV機器の動作（モーターの回転）には、機械的な精度の限界があります。従って、DVメディア先頭の頭出しには、数フレーム程度の誤差が出てしまうことがあります。

バッチキャプチャの自動頭出し処理で、指定したプリロールタイム以上にテープが送られてしまうことがある

仕様です

パソコンがDVメディアのタイムコードを検出し、DV機器を止めるまでには若干のタイムラグ（時間的なズレ）があります。その間もDVメディアは移動するので、実際のプリロールタイムは指定されたものと厳密には一致しません。[コントロールウィンドウ]の[Option]ボタンで、[頭出しに高速送りを使用しない]をチェックすることによって、頭出し精度を改善できる可能性があります（12ページ参照）。

1フレームずつフレーム送り・戻しをしていても、タイムコードの値が飛ぶことがある

ドロップフレームタイムコード方式を使用しているため

NTSC方式のビデオ信号で一秒間に30フレームの映像としてタイムコードの記録を行うと、一時間あたり108フレーム、約3.6秒の誤差が生じます。
ドロップフレーム方式とは、その誤差を補正し実際の時間とタイムコードの値を一致させるための方法です。
具体的には、１時間分のタイムコードの中で00・10・20・30・40・50分を除く54分間それぞれの先頭2フレームを欠落（ドロップ）させて、合計108フレームの誤差を補正します。

DV機器上で表示されているタイムコードとDVworks上で表示されているタイムコードが一致しない

DV機器とDVworksの間でタイムコード形式が一致していない

DVworksではタイムコードをドロップフレーム形式で扱います。DV機器のタイムコード形式が変更できる場合は、タイムコード形式をドロップフレーム形式に設定してください（方法はDV機器の取扱説明書を参照してください）。

DV機器がおかしな動きをする

DVworks対応外のDV機器です

キャプチャ時、書き戻し時

キャプチャしたAVIファイルがフレーム落ちしている

CPU速度が不足している
（プレビュー表示ではDVストリームのソフトウェアデコード処理を行っています。この処理は非常にマシンパワーを消費するため、キャプチャ処理やDV書き戻し処理に悪影響を与える可能性があります。）

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、[音声を再生する]のチェックを外してください（7ページ参照）。また、[フレームレート]や[最大デコードサイズ]を小さくしてみてください。

使用しているDVケーブルに問題がある

品質の低いDVケーブルや極端に長いケーブルを使用していると、データの送受信が正常に行われない場合があります。付属のケーブルまたは、品質の高いDVケーブルを使用してください。

ドライバソフトが正常にインストールされていない

ドライバソフトを再インストールしてください。

＜再インストール手順＞

①デバイスマネージャで「Texas Instruments･ …」をクリックします。
②削除ボタンで削除後、パソコンを一旦再起動します。
③後は【ドライバをインストールする】（GV-DVC3/CB取扱説明書24ページ～。使用するOSに合わせて）を参照してドライバをインストールしてください。

書き戻したビデオ画像がフレーム落ちしている

シーンキャプチャでシーンの検出が行われない

DVworksの対応外のDV機器です

シーン情報の記録がないDVテープを使用している

シーン情報が記録されたDVテープを使用してください。

キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が終了してしまう

エラーメッセージが表示された場合は、その内容により、原因を切り分けてください。

メッセージ内容
「オーディオ周波数の変更を検出しました」

エラーが発生した時点のDVメディアで、データの乱れがあるか、その位置から音声記録周波数が変更されています。一つのAVIファイルで設定可能な音声周波数は一種類のみです。AVIキャプチャ中にDVメディアの音声周波数の設定が変わっていると、その時点でキャプチャを終了します。エラー発生時点を避けてキャプチャしてください。

メッセージ内容
「著作権保護されたDVストリームが入力されました」

著作権保護ビットを検出すると表示されます。この映像はキャプチャできません。

メッセージ内容
「ドライブ容量がなくなりました」
（DVworksのバッチキャプチャ処理では、書き込み中のハードディスクドライブ容量が不足している場合に、そのドライブの次のドライブ名をもつハードディスクドライブを書き込み先に変更してキャプチャ処理を続行します。）
※ リムーバブルメディアは書き込み先として認識しません。

リムーバブルメディア以外の全てのハードディスクドライブの容量を使い切った時点でキャプチャ処理は終了します。

メッセージ内容
「フレーム落ちが発生しました」

DVキャプチャのモード設定画面で、[フレーム落ち発生時にキャプチャを中断する]がチェックされている場合で、フレーム落ちエラーが発生した場合に表示されます。
フレーム落ちの原因は、58ページ「キャプチャしたAVIファイルがフレーム落ちしている」を参照してください。

メッセージ内容
「入力信号が乱れています」

何らかの原因で入力DV信号が乱れている場合に表示されます。エラー発生点を避けてキャプチャしてください。

DVメディアからDVストリームをAVIファイルへキャプチャできない

コピープロテクトフラグの設定されたDVストリームを使用している

著作権保護の為、DVworksではコピープロテクトフラグの設定されているDVストリームをキャプチャすることはできません。

AVIファイルをDVメディアに書き戻せない

コピープロテクトフラグの設定されたDVストリームを含むAVIファイルである

著作権保護の為、DVworksではコピープロテクトフラグの設定されているDVストリームをDVメディアに書き戻すことはできません。

反応の遅いDV機器を使用している

一部のDV機器はDVストリームの入力に対する反応が遅く、入力DVストリームの認識と録画コマンドの受信タイミングによってはDVメディアへの書き戻しが正常に行われないことがあります。[コントロールウィンドウ]の[Option]ボタンで、[録画開始マージン]を大きくすることによって、書き戻し処理が正常に行える可能性があります（12ページ参照）。

DV入力やDVWorksに対応していないDV機器である

一部のDV機器は、DVストリームの入力に対応していないため、AVIファイルをDVメディアに書き戻すことができません。DV入力対応のDV機器を使用してください。

書き戻し時にエラーメッセージが出たり、映像が正しく書き戻せない

[コントロールウィンドウ]の[Option]ボタンで、「録画開始マージン」を大きくしてください（12ページ参照）。

『MediaStudio Pro』で編集後のファイルのみが正常に書き戻せない場合は、『MediaStudio Pro』でのファイル保存時のオプション設定に誤りがないかご確認ください。
（GV-DVC3/CB取扱説明書155ページ【編集した作品を保存しよう】参照）

例）[圧縮]タブでの[オーディオの属性]の設定に以下のいずれか以外を指定している場合は、［オーディオ］ボタンで以下のいずれかに設定し直してください。
（GV-DVC3/CB取扱説明書157ページの手順**5**参照）

- 「32.000kHz,16ビット,ステレオ」
- 「44.100kHz,16ビット,ステレオ」
- 「48.000kHz,16ビット,ステレオ」

※上記項目が表示されない場合は、『MediaStudio Pro』CD-ROM内の「ドライバをインストールする」→「NetShowツール」をインストールしてください。

また、[アドバンス]タブの設定で[オーディオとビデオのインターリーブ]にチェックを入れておいてください。
（GV-DVC3/CB取扱説明書156ページの手順**4**参照）

3	プレビューウィンドウで右クリックし、[プロパティ]より[映像を再生する]のチェックを外した状態でお試しください。映像は表示されませんが、パソコンへの負荷が軽減されるため、書き戻し時のトラブルが回避される場合があります。
	ご利用のハードディスクがIDE（ATAPI）タイプの場合、【DMAの確認】（GV-DVC3/CB取扱説明書18ページ）を参照して、DMAの設定を変更してみてください。
	ご利用のパソコンのBIOS設定に、[PCI Latency Timer(PCI Clocks)]という設定があれば、64に設定してみてください。（BIOS設定画面の起動や操作詳細についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。）

キャプチャしたAVIファイルに音声が記録されていない

	・DVメディア上の未録画領域に録画した ・記録データの乱れた領域に録画した
	DVメディアの未録画領域や記録データの乱れた領域をさけてキャプチャしてください。

キャプチャしたAVIファイルをメディアプレーヤーで再生すると、エラーが発生したり真暗な画面が再生されたりする

	以下を行ってみてください。 ・ ディスプレイの表示解像度や、色数を低くしてみる。 ・ [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[マルチメディアのプロパティ]の[デバイス]タブ上で[ビデオ圧縮Codecs]の[Panasonic DV codec]、[Panasonic and I-O DATA DV GigaAVI Codec]の設定で[強制的にRGB形式でデコードする]にチェックを付ける。

キャプチャしたMPEGファイルをメディアプレーヤで再生しても映像や音声が出力されない

	「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」をインストールしてください。（GV-DVC3/CB取扱説明書46ページ参照）

『MediaStudio Pro』で「スマートレンダリング」を行って作成したAVIファイルを、DV機器に書き戻ししようとすると、音声が途切れてしまう

以下を行ってみてください。

- 『MediaStudio Pro』のビデオ作成時の[オプション]→[アドバンス]での[オーディオとビデオのインターリーブの設定]にチェックを付け、「１」に設定してみてください。
  （GV-DVC3/CB取扱説明書156ページの手順**4**参照）
- 書き戻すAVIファイルを、Windowsがインストールされているドライブ以外に作成してみてください。
- AVIファイルをATAPI以外のハードディスク（できればSCSI接続等の高速なドライブ）に作成してみてください。
- AVIの形式がGigaAVI形式ならば、AVIファイルと参照先データファイルを、それぞれ異なるドライブになるようにしてみてください。
- AVIファイルのあるドライブに対し、デフラグを実行してみてください。

キャプチャしたAVIファイルをメディアプレーヤーで再生すると、音声が途切れてしまう

以下を行ってみてください。
『MediaStudio Pro』のタイムライン上に、そのAVIファイルを読み込みます。ビデオ作成時に[オプション]→[アドバンス]での[オーディオとビデオのインターリーブの設定]にチェックを付け、「30」に設定してみてください。
（GV-DVC3/CB取扱説明書146ページの手順**4**参照）

キャプチャしたWMVファイルをメディアプレーヤで再生しても、映像や音声が出力されない

「Ulead MediaStudio Pro」ディスク内にあるメディアプレーヤ7をインストールしてください。

キャプチャ時、書き戻し時(D-VHS機器のみ)

キャプチャを開始したのに、キャプチャ先のファイルが0バイトのままになってしまう

D-VHSがMPEG-2ストリームを外部へ出力できない設定になっている

D-VHSを外部出力可能な設定にしてください。方法については、各D-VHSの取扱説明書をご覧ください。

パソコンとD-VHS機器間のリンクが切れている

ケーブルの抜き差しを行ってください。

キャプチャ中に「入力ストリームエラーが発見されました。キャプチャ処理を中断します。」というダイアログが表示され、処理が中断する

キャプチャ元のD-VHSテープに記録されたデータが乱れている

D-VHS機器のヘッドクリーニングを行い、再度キャプチャを試してください。

書き戻しを開始できない

D-VHS機器が外部からのMPEG-2ストリーム入力を受け付ける設定になっていない

D-VHSを外部入力受付可能な設定にしてください。方法については、各D-VHSの取扱説明書をご覧ください。

書き戻し開始時のマージンよりも長い間ウエイトしてしまう

D-VHS機器によっては、指定された時間以上にウエイトが入ってしまう場合があります。

書き戻しを行ったテープを再生しても映像が表示されない

D-VHS機器がサポートしていない形式でエンコードしたMPEG-2ストリームを書き戻ししている

書き戻すMPEG-2ストリームをエンコードするときに、適切な形式でエンコードしてください。（添付のMediaStudioProおよび「Panasonic DS MPEG PlugIn for Ulead」にてエンコードしてください。）

STDモードのMPEG-2ストリームをLS3録画モードで書き戻ししている

D-VHS機器の録画設定をSTDモードにして書き戻しを行ってください。

MPEGファイルを書き戻したテープを再生すると映像の動きがぎこちない

書き戻したMPEG-2ファイルのフィールドオーダーが誤っている

書き戻すMPEG-2ファイルを作成した時のフィールドオーダー設定を変更して再びMPEG-2ファイルを作成し、そのファイルを書き戻してください。（GV-DVC3/CB取扱説明書160ページ参照）

DV機器全般の問題

あるDV機器で録画したDVメディアが、別のDV機器で読み込めないことがある

DVメディアがLP（長時間）モードで記録されている

LPモードで記録されたDVメディアは、DV機器とDVメディアの間での相性問題が発生し易くなります。記録にはSP（標準）モードを使用することを推奨します。

本製品添付のアプリケーション以外のアプリケーションが、正常に動作しない

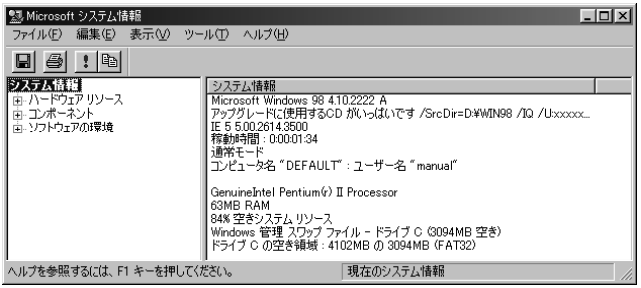
まずは、本製品が正常に認識されているかご確認ください。（GV-DVC3/CB取扱説明書【インストール後の確認】(32ページ)参照）
認識に問題がない場合は、本製品の動作には問題ないと思われますので、ご使用のアプリケーションメーカーにて、サポートを受けてください。

Windowsを終了後、「Windowsを終了しています」の表示のまま止まってしまう（Windows 98 SEの場合のみ）

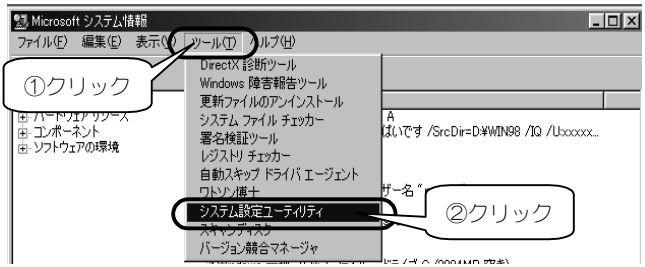
Windowsの終了を行ったにもかかわらず、「Windowsを終了しています」の表示のままで止まってしまう場合があります。その際には、下記の対処をお試しください。

本製品が原因であるかどうかをテストします。
パソコンの電源を切って、本製品を取り外し、現象が改善されるかどうかを確認してください。
現象が改善された場合は、次ページの対処２をお試しください。
現象が改善されない場合は、パソコン本体メーカーにお問い合わせください。

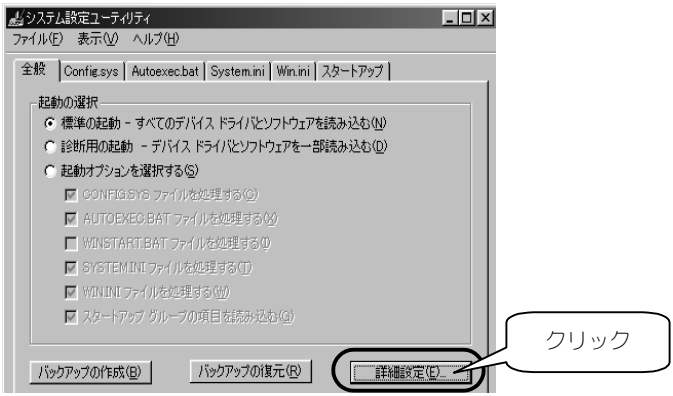
1. ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］より［システム情報］を起動します。



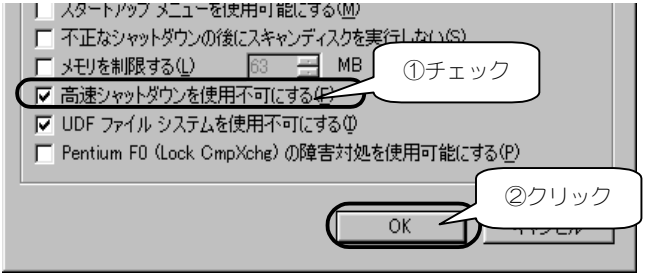
2. ［ツール］メニューの［システム設定ユーティリティ］をクリックします。



3. ［詳細設定］ボタンをクリックします。



4. ［高速シャットダウンを使用不可にする］にチェックを入れ、［OK］ボタンをクリックします。



以上の設定後、現象が改善されるかご確認ください。

以上の対処１および対処２でも現象が改善されない場合、Microsoft社より「Windows 98 SE Shutdown Supplement」が提供されております。
詳しくは下記URLを参照してください。

http://www.microsoft.com/japan/win98/downloads/shutdown.htm

注意！

1) 上記URLに関する問い合わせの受け付けは弊社では行っておりません。
使用上の注意をよくお読みになった上でご使用ください。
2) ホームページのアドレスは予告なしに変更または、中止になる場合があります。

ストレージ機器接続時

[SBP2]の表示がない（Windows Me/98 SEの場合のみ）

ケーブルが正常に挿入されていない

1394ケーブルを一度抜き挿ししてみてください。

ストレージ機器が動作していない

ストレージ機器の電源が入っているか確認してください。

PCカーを正しく取り付けていない

GV-DVC3/CB取扱説明書「カードを取り付ける」(23ページ)をご覧になり、正しく取り付けてください。

PCカードを取り付け直してお試しください。

[SBP2 Compliant IEEE 1394デバイス]の表示がない（Windows Me/98 SEの場合のみ）

Windows 98 SEのアップデートが行われていない

【『DVworks』をインストールする】(36ページ)を行うとアップデートできます。

接続したストレージ機器が[デバイスマネージャ]の[ディスクドライブ]に表示されない

正しく接続されていない

一度パソコンの電源を切ってから、いったんストレージ機器を取り外します。
再度、ストレージ機器の電源を入れ、ケーブルを本製品に接続し直してみてください。

ストレージ機器の取り外しの際に[取り外しができません]と表示される

使用中のアプリケーションをすべて終了した後に、もう一度取り外し手順を行ってみてください。

ストレージ機器の取り外しの際に１分以上待っても取り外し許可のメッセージが表示されない

Windowsを終了した後に、取り外してください。

リソースの変更方法

本製品と他のデバイスのリソースが競合もしくは共有（シェアリング）されていると正常に動作しない場合があります。
ここでは、リソース（主にIRQ）の変更方法について説明します。

	本製品を取り付けるPCカードスロットを変更してお試しください。（取り付けるPCカードスロットを変更することでリソースが変更される場合があります。）
	本製品を取り付けた状態で、GV-DVC3/CB取扱説明書14ページ【IRQの空きの確認】を行い、本製品に割り当てられているIRQが、他のデバイスでも使用されていないかをご確認ください。（IRQステアリングホルダという表記は、存在しても問題ありません。） 同じIRQを他のデバイスで使用している場合には、そのデバイスのIRQを変更するか、取り外す等してご確認ください。
	パソコン本体のBIOSのリソース設定を変更してみてください。（詳細は各パソコンの取扱説明書もご参照ください。） **参考（IRQの変更をするには？）** IRQの変更は、[デバイスマネージャ]上からは行えない事が多く、通常パソコン本体のBIOS設定から行います。 BIOSの設定方法は各メーカにより異なります。詳細についてはパソコン本体の取扱説明書もご参照ください。
	以下および次ページの手順に従って、本製品のリソースが他のデバイスと競合もしくは共有されていないか確認し、競合もしくは共有しているデバイスのリソースを変更します。（本製品のリソースは変更できません。）

GV-DVC3/CB取扱説明書14ページ【IRQの空きの確認】を行って、「GV-DVC3/CB」と競合または共有しているデバイスがないか確認します。あれば次ページの手順で競合もしくは共有しているデバイス側のリソースを変更してみてください。

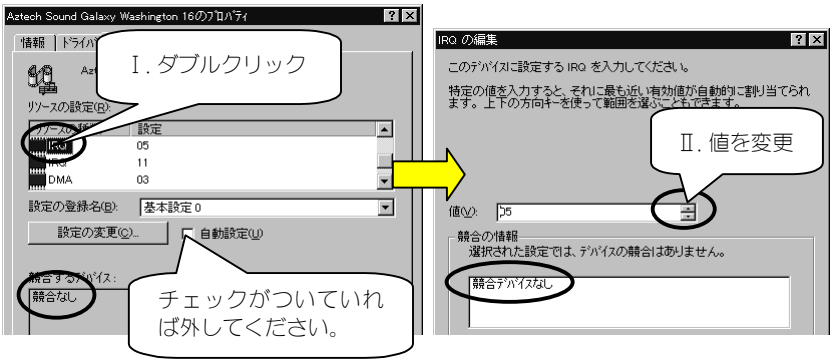
下記はWindows 98の例です。

① [デバイスマネージャ]を起動します。

② 競合もしくは共有しているデバイスをダブルクリックします。

③ [リソース]タブをクリックします。

④ 以下のようにリソースを変更します。



[競合するデバイス]に[競合なし]と表示される場合もありますが、【競合先デバイスの確認】で競合していたので、上記左画面の[Ⅰ]をダブルクリックします。上記右画面の[Ⅱ]をクリックして他の[競合デバイスなし]となる値を選んで、[OK]ボタンをクリックしてください。

> パソコンの環境によってはリソースの変更（主にIRQ）ができない場合、パソコン本体のBIOS設定で、IRQ割り当てを変更する必要があります。
> 詳細についてはパソコンメーカーへお問い合わせ頂くか、パソコン本体の取扱説明書をご覧ください。

⑤ [OK]ボタンを数回押してコントロールパネルを終了すると、Windowsの終了確認画面が表示されるので、[はい]ボタンをクリックして、Windowsを終了します。

⑥ パソコンの電源をOFFにしてください。

⑦ リソースを変更したデバイス（インターフェイス）の設定をWindowsと合わせるため、ディップスイッチまたはジャンパスイッチで変更してください。（詳細は、設定変更する製品の取扱説明書を参照してください。）

ドライバの更新

本製品を使用してキャプチャした映像にノイズ、音飛び等が発生する場合、本製品に付属のカードバスドライバに更新する方法を説明します。

OSごとに作業内容が異なる個所は マークをつけて説明を付け加えています。ご参照ください。

注意

・パソコンの機種によってはドライバの更新を行っても現象が解決されない場合があります。
・正常に動作している場合はドライバの更新は行わないでください。誤ってインストールした場合は再度P24の「ドライバをインストールする」の作業を行い「Texas Instruments…」ドライバをインストールしてください。

1 システムのプロパティを開きます。

Windows XPの場合

［スタート］をクリックし、［マイコンピュータ］を右クリックします。
表示された［プロパティ］をクリックします。

Windows 2000/Me/98 SE

［マイコンピュータ］アイコンを右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

2 デバイスマネージャを開きます。

Windows XP/2000の場合

［ハードウェア］タブをクリックし、［デバイスマネージャ］ボタンをクリックします。

Windows Me/98 SE

［デバイスマネージャ］タブをクリックします。

3 「種類別に表示」します。

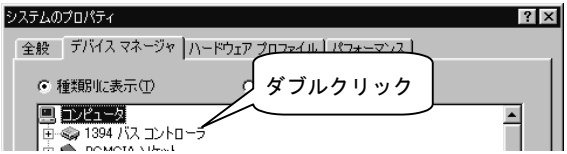
Windows XP/2000の場合

［表示］→［デバイス（種類別）］の順にクリックします。

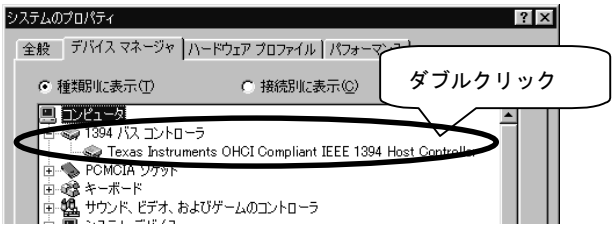
Windows Me/98 SE

［種類別に表示］をクリックします。

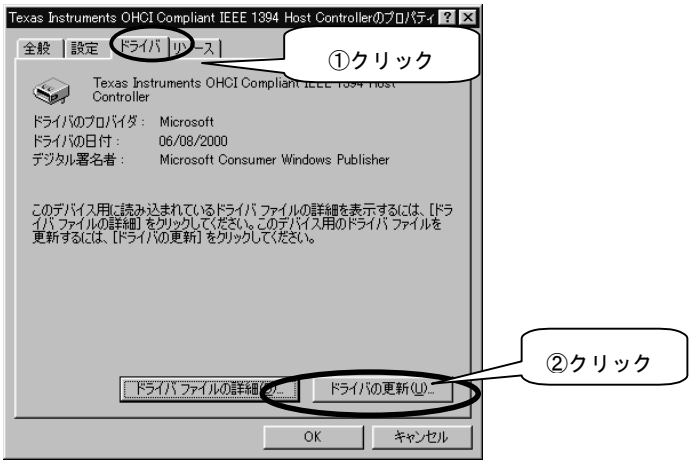
4 **[1394 バス コントローラ]をダブルクリックします。**



5 **[Texas Instruments OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller] をダブルクリックします。**

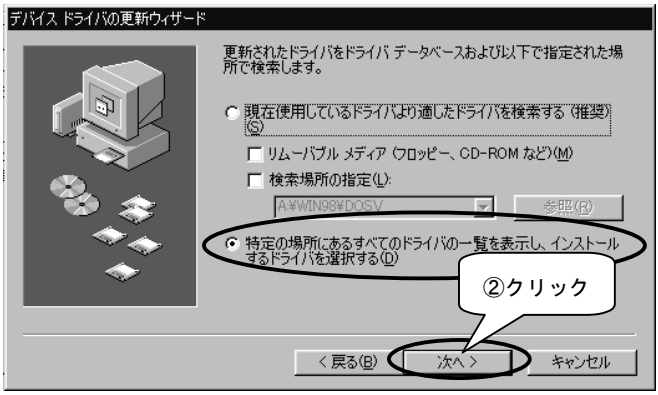


6 **[ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]ボタンをクリックします。**



7 手順８の画面が出るまで、[次へ]ボタンをクリックします。

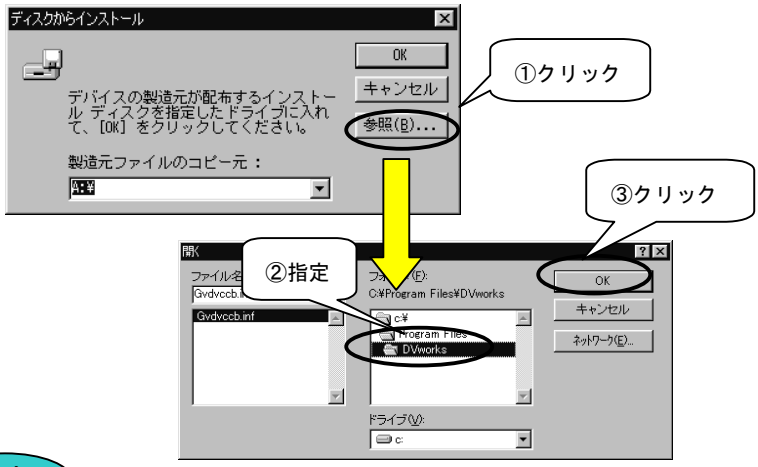
8 [特定の場所にある全てのドライバの一覧を作成し・・・]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



Windows 2000の場合は、「このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する」というメッセージが出ます。
Windows XPの場合は、「検索しないでインストールするドライバを選択する」というメッセージが出ます。

9 [ディスク使用]ボタンをクリックします。

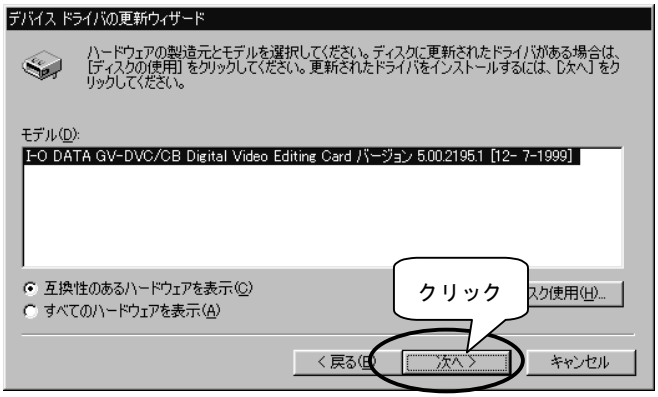
10 [参照]ボタンをクリックし、DVworksをインストールしたフォルダを指定後、[OK]ボタンをクリックします。



参考

通常、フォルダを指定しなければ、C¥Program Fileの中にインストールされています。

11 [モデル]の[I-O DATA GV-DVC/CB …]をクリックし、[次へ]ボタンをクリックします。



12 [次へ]ボタンをクリックします。

Windows 98 SEの場合、ディスクの挿入を求められたら、[OK]ボタンをクリックします。

その後、手順7を繰り返し、以降はスキップボタンをクリックして進めます。

13 [完了]ボタンをクリックします。

14 再起動します。

● 更新後のドライバ表示について
更新後は、デバイスマネージャ内、および本製品取り出し時のドライバ表示は、以下のようになります。

[I-O DATA GV-DVC/CB Digital Video Editing Card]

参考資料

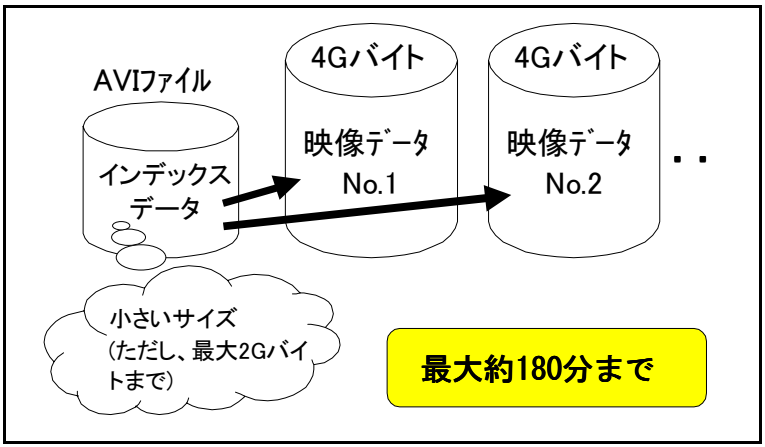
2G以上のAVIファイルを扱うには

AVIファイルはVideo for Windowsの仕様制限により、ファイルサイズが2Gバイトまでとなっています。
DVの映像データ（約3.6Mバイト/秒）の場合、このファイル制限内で記録できる時間は約9分30秒となります。これ以上の記録を行いたい場合は、参照型AVI方式をご使用ください。
参照型AVI方式（GigaAVIフォーマット）は、2Gバイト以上の長時間AVIファイル（最大で約180分）を実現するために弊社が開発した方式です。

GigaAVI フォーマット	今までの AVIフォーマット
最大約180分	最大約9分30秒

●参照型AVI方式

圧縮した映像データ部分（複数）と、その映像データファイルの参照先パス（インデックスデータ）を格納したAVIファイルから構成されています。



インデックスデータファイル

外部に作成する映像データの参照先のみを格納したファイルです。
参照先の映像データファイルが増える度に参照先パスを追加していきます。映像データと比較すると非常に小さいので大量のインデックスを持つことができます。ただし、最大2Gバイトの制限があります。

映像データファイル

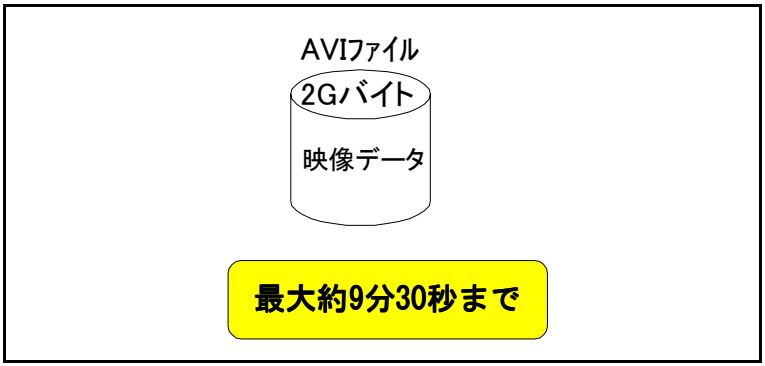
インデックスデータの外部にできる実際の映像データです。
2Gバイトの制限やファイル数の制限を受けません。
（Windowsのファイルシステムの制限で、１つのデータファイルの大きさは4Gバイトまでとなります）

参考

キャプチャ時には、インデックスデータファイルと映像データファイルは別のドライブにすることをおすすめします。

●今までの方式

映像データが圧縮されたAVIファイルのみです。



DVworksの設定とAVIファイルの関係

「DVworks」の設定によって作成されるAVIファイル（フォーマット）は異なります。

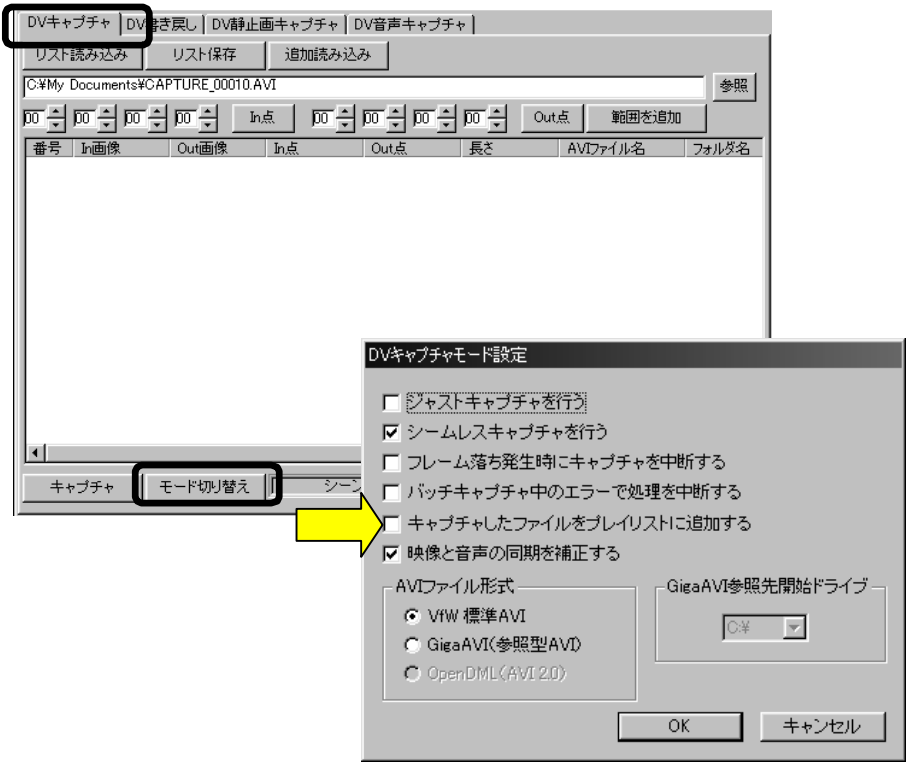
設定は、[DVキャプチャ]タブを選んだファンクションパネルの[モード切り替え]ボタンで行います。

・シームレスキャプチャを行う

・AVIファイル形式

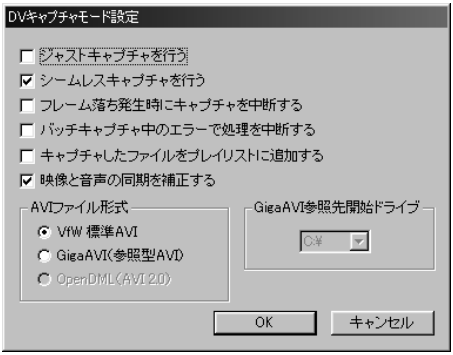
VfW標準AVI　←・・・・・・・VfW（Video for Windowsの略）

GigaAVI（参照型AVI）

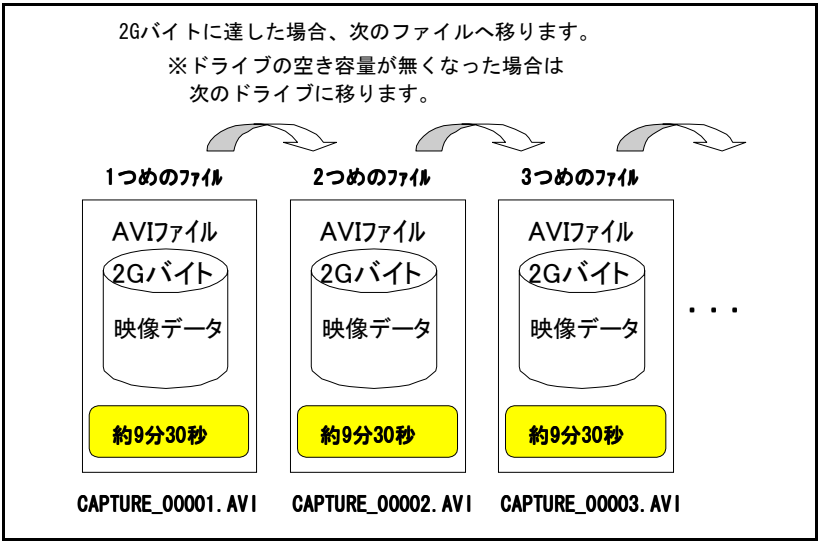


（初期設定：「シームレスキャプチャを行う」「VfW標準AVI」がチェックされています。）

＜シームレスキャプチャを行う＞と＜VfW標準AVI＞をチェックした場合　（初期設定）



従来のAVIファイルを作成します。
ただし、AVIファイルが2Gバイトに達した時、自動的に新たなAVIファイルを作成してフレーム落ちなく、ドライブの空き容量があるまで続行します。
2Gバイトに達する前にドライブの空き容量が無くなった場合は、次のドライブ（ドライブ名順）のルートフォルダにファイルを作成していきます。
（次のドライブがリムーバブルドライブの場合は処理を終了します。）



<AVIファイル名について>

ファイルエディットボックスでベースファイル名を指定します。

作成されるファイル名は以下の様になります。

ベースファイル名 ＋ ５桁のカウンタ

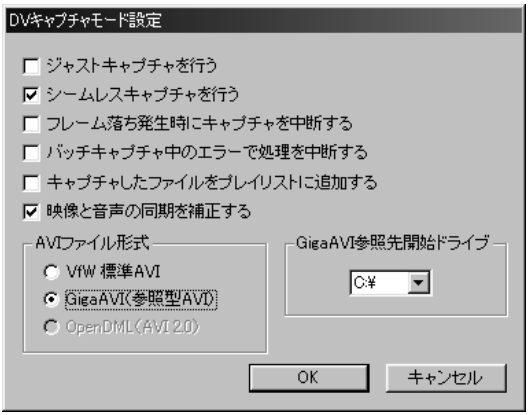
拡張子はAVI固定です。５桁のカウンタの番号は、キャプチャするたびに自動的に加算されていきます。

例）ベースファイル名をCAPTURE_00001.AVIとした場合、以下の様に作成されます。

CAPTURE_00001.AVI
CAPTURE_00002.AVI
CAPTURE_00003.AVI
・・・・・・・・・・・・・・・

※ 連続番号のカウンタをもつファイル群のうち、途中のファイルを削除した場合でも、次にキャプチャされるファイルのカウンタ部分は、最後の番号になります。
例えば、上記の例ではCAPTURE_00002を削除した場合でも、次にカウントされる番号はCAPTURE_00004.AVIとなります。

＜シームレスキャプチャを行う＞と ＜GigaAVI（参照型AVI）＞をチェックした場合



GigaAVIファイルを作成します。

＜映像データファイル＞

4Gバイトに達した時、自動的に新たな映像ファイルを作成してフレーム落ちなく、ドライブの空き容量があるまで続行します。

4Gバイトに達する前にドライブの空き容量が無くなった場合は、次のドライブ（ドライブ名順）のルートフォルダにファイルを作成していきます。（次のドライブがリムーバブルドライブの場合は処理を終了します。）

＜インデックスファイル＞

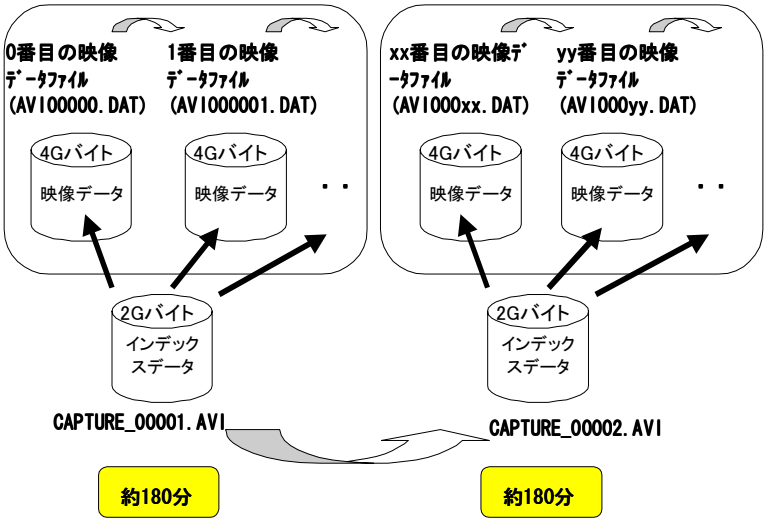
2Gバイトに達した時、自動的に新たなインデックスファイルを作成してフレーム、ドライブの空き容量があるまで続行します。

※ 映像データファイルは、[GigaAVI参照先開始ドライブ]のルートフォルダに作成されます。

保存先フォルダの変更はできません。また、作成されたファイルは移動しないでください。

映像データファイルは4Gバイトに達した場合、
次のファイルへ移ります。

※ドライブの空き容量が無くなった場合は
次のドライブに移ります。



インデックスデータファイルは2Gバイトに達した場合、次のファイルへ移ります。

<インデックスファイル名について>

ファイルエディットボックスでベースファイル名を指定します。

作成されるファイル名は以下の様になります。

ベースファイル名 ＋ ５桁のカウンタ

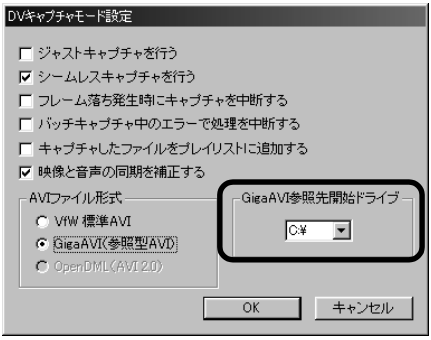
拡張子はAVI固定です。５桁のカウンタの番号は、キャプチャするたびに自動的に加算されていきます。

例）ベースファイル名をCAPTURE_00001.AVIとした場合、以下の様に作成されます。

CAPTURE_00001.AVI
CAPTURE_00002.AVI
CAPTURE_00003.AVI
・・・・・・・・・・・・・・・

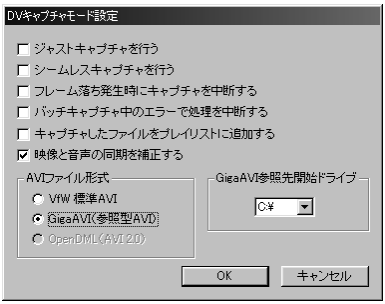
<映像データの保存先ドライブの設定>

映像データは、「AVIファイル入出力方式」の
[GigaAVI参照先開始ドライブ]で指定したドライブに保存されます。



※ 映像データファイルは、[GigaAVI参照先開始ドライブ]のルートフォルダに作成されます。
保存先フォルダの変更はできません。また、作成されたファイルは移動しないでください。

＜シームレスキャプチャを行う＞のチェックを外し＜GigaAVI（参照型AVI）＞をチェックした場合



GigaAVIファイルを作成します。

＜映像データファイル＞

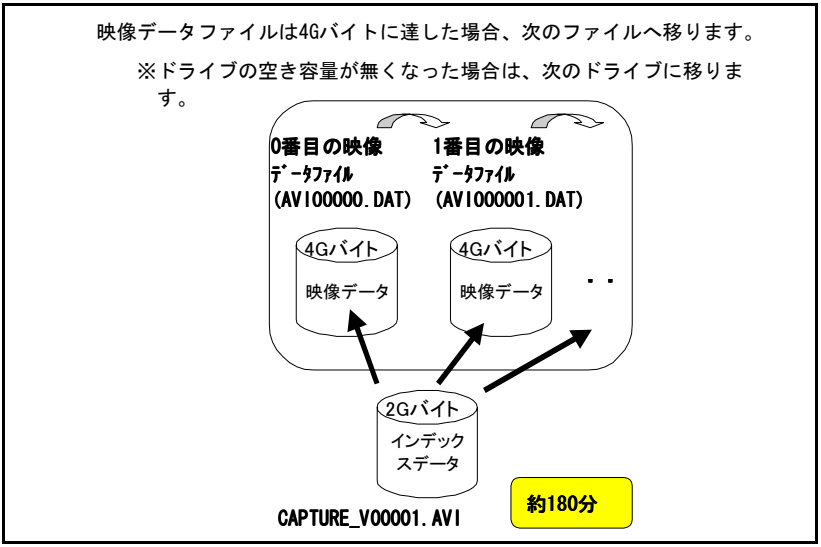
4Gバイトに達した時、自動的に新たな映像ファイルを作成してフレーム落ちなく、ドライブの空き容量があるまで続行します。

4Gバイトに達する前にドライブの空き容量が無くなった場合は、次のドライブ（ドライブ名順）のルートフォルダにファイルを作成していきます。

（次のドライブがリムーバブルドライブの場合は処理を終了します。）

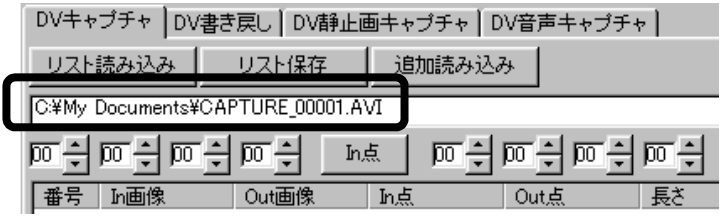
＜インデックスファイル＞

2Gバイトに達するまで続行します。



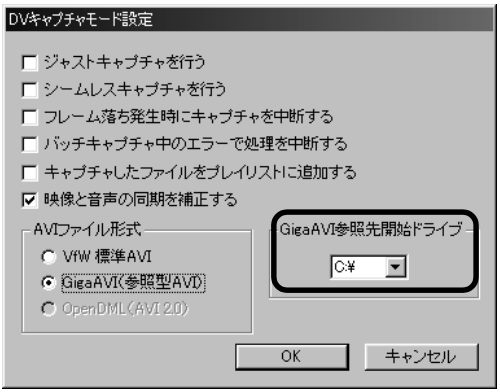
＜インデックスファイル名について＞

ファイルエディットボックスでベースファイル名を指定します。



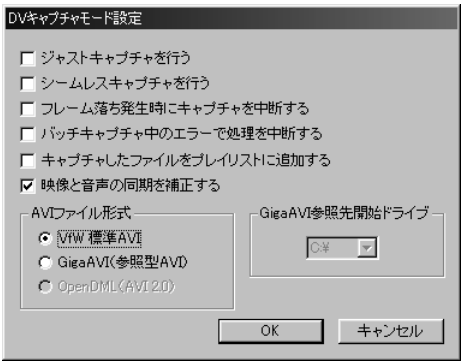
＜映像データの保存先ドライブの設定＞

映像データは、「AVIファイル入出力方式」の
[GigaAVI参照先開始ドライブ]で指定したドライブに保存されます。



※ 映像データファイルは、[GigaAVI参照先開始ドライブ]のルートフォルダに作成されます。
保存先フォルダの変更はできません。また、作成されたファイルは移動しないでください。

＜シームレスキャプチャを行う＞のチェックを外し＜VfW標準AVI＞をチェックした場合



従来のAVIファイルを作成します。
最大約9分30秒のファイル（サイズは2Gバイト）を作成できます。
2Gバイトに達する前にドライブの空き容量が無くなった場合は、その時点までのファイルを作成し、処理を終了します。

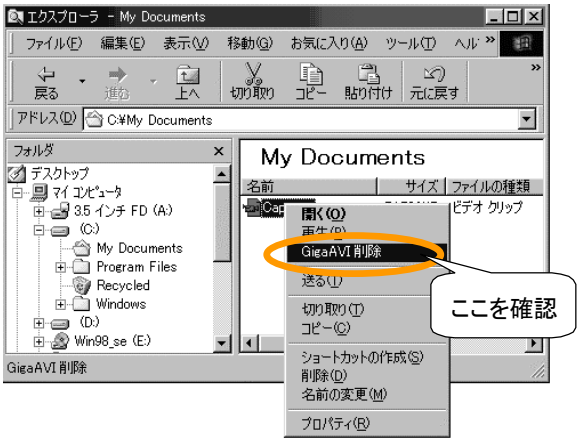
＜AVIファイル名について＞

ファイルエディットボックスでベースファイル名を指定します。

GigaAVIファイルの確認方法

AVIファイルが「GigaAVIファイル」か「従来のAVIファイル」かは以下の手順で確認できます。

[エクスプローラ]上で確認したいAVIファイルを右クリックします。



メニュー内に[GigaAVI削除]の項目のあるファイルがGigaAVIファイルです。

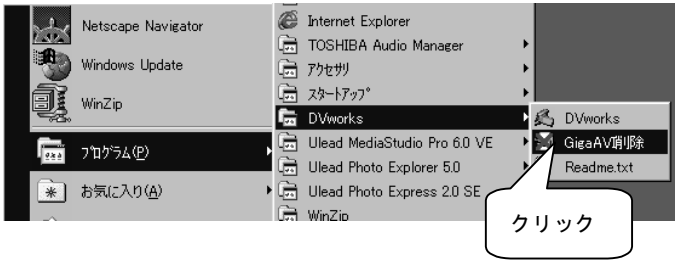
確認後は、「Esc」キーでメニューを閉じてください。

GigaAVIファイルを削除する場合

本製品には、GigaAVI形式のAVIファイルと、それに関連する参照先データファイルをまとめて削除するためのユーティリティが付属しています。

＜起動方法＞

1 **[スタート]→[プログラム]→[DVworks]→[GigaAVI削除]を順にクリックします。**



＜使用方法＞

1 **削除したいGigaAVIファイル名を入力、あるいは[参照]ボタンをクリックし、[ファイル選択]画面から削除したいGigaAVIファイルを選択します。**

2 **[削除]ボタンをクリックします。**

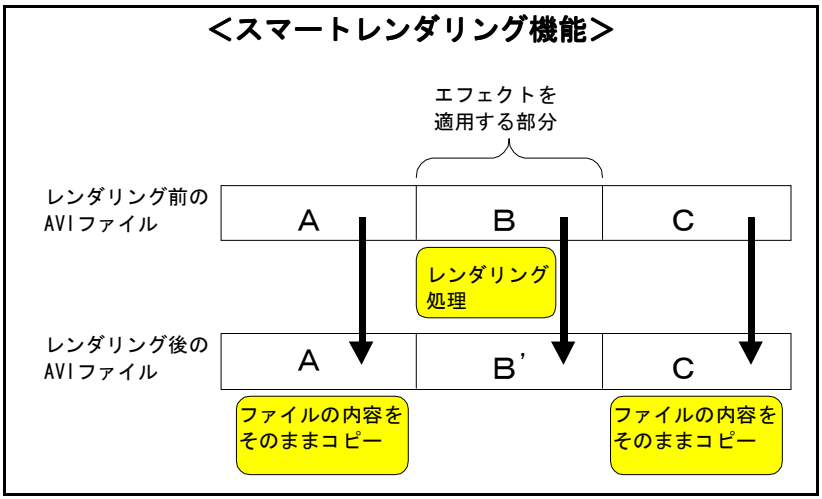
3 **“削除しますか?”で、[はい]ボタンをクリックすれば指定したGigaAVIファイルを削除して終了します。**

参考

AVIファイルを右クリックすることによって開くメニューの項目に、[GigaAVI削除]がありますので、そこからもプログラムを起動することができます。その時は、自動的にGigaAVIファイル名が指定されます。

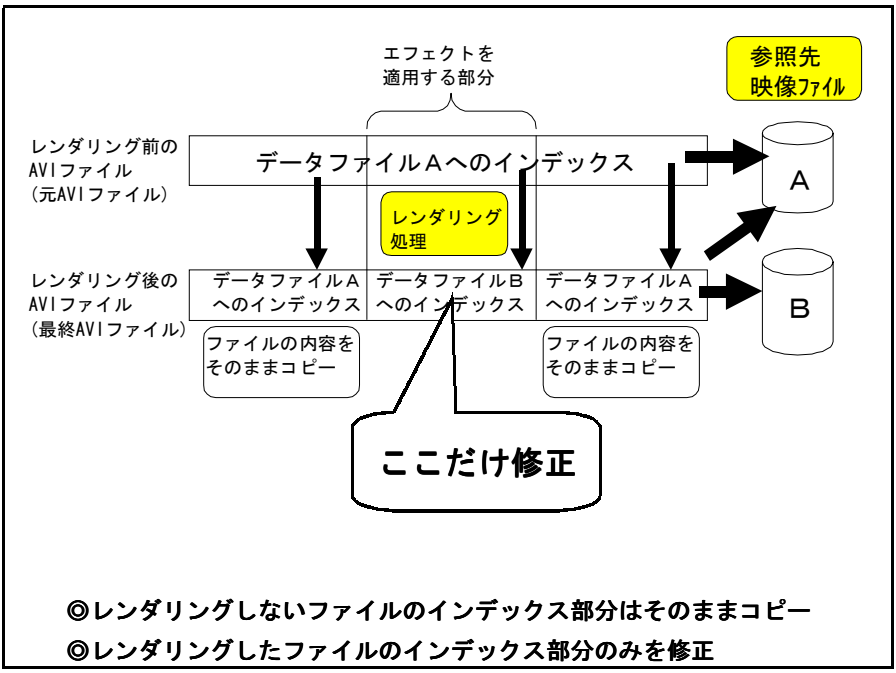
MediaStudio Proでの注意事項

MediaStudio Proでは「ビデオ圧縮方式」（CODEC方式：GV-DVC3/CB取扱説明書157ページの手順**5**参照）がレンダリング前と後とで同じ場合、レンダリング時間を短縮するためのスマートレンダリング機能を持っています。
これはエフェクト効果のない部分などの演算処理の必要がない映像データについては、元のAVIファイルから直接データを抜き出してレンダリング後のAVIファイルに保存する事で、レンダリングにかかる時間を短縮する機能です。



レンダリング前と後のAVIファイルが両方ともGigaAVI（参照型AVI）の場合、ファイル内部は映像データではなく、映像データファイルの参照先のインデックスデータです。そのため、レンダリング処理を行っても元AVIファイルと最終AVIファイルで共通で参照する映像データ（以下の図の参照先Ａ）を持つこととなります。

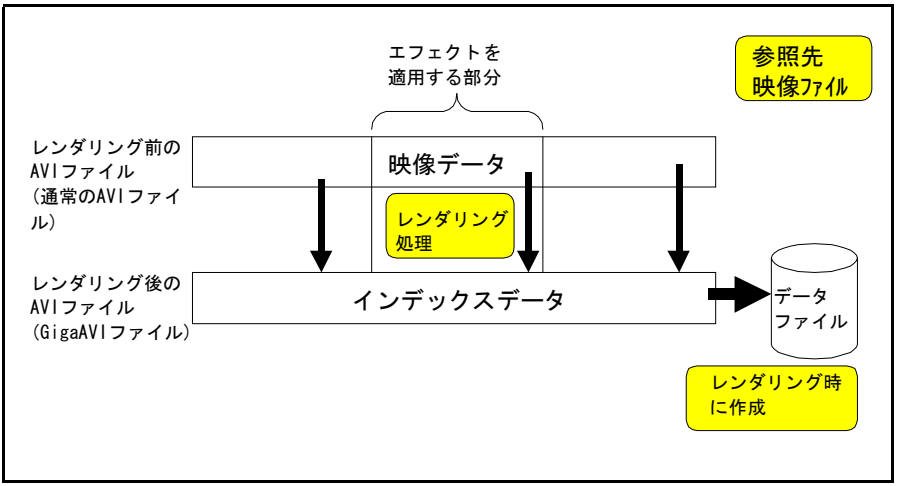
GigaAVI削除ユーティリティ（92ページ参照）で、元AVIファイル（レンダリング前のAVIファイル）を削除してしまった場合、ユーティリティが参照先映像ファイル（以下の図の参照先Ａ）のファイルも削除してしまうため、最終AVIファイル（レンダリング後のAVIファイル）の参照先映像データファイルがないため、レンダリング後のAVIファイルを正常に再生できなくなります。



◎レンダリングしないファイルのインデックス部分はそのままコピー

◎レンダリングしたファイルのインデックス部分のみを修正

これを回避するためには、編集前のAVIファイルは通常型のAVIファイルを複数使用し、最終的に参照型AVIファイルを作成する方法を推奨します。



注意

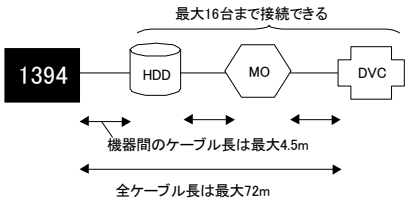
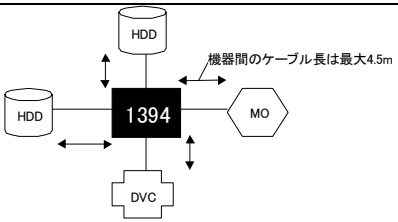
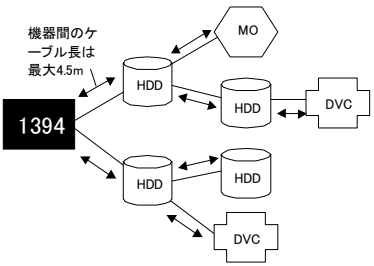
レンダリング前がGigaAVIで、レンダリング後に通常のAVIファイルを作成した場合は、最大2Gバイト（約9分30秒）までのファイルとなります。

本PCカードに2台以上の機器を接続する場合

ここでは、本PCカードに2台以上の機器を接続する場合の接続形態による制限事項等を説明します。

1394機器の接続方法

1394機器の接続方法には、デイジーチェーン接続、スター接続、ツリー接続があります。

接続方法	接続例
デイジーチェーン （機器同士を数珠状に接続する方法）	
スター （1394インターフェイスを中心にスター(星)状に接続する方法）	
ツリー （各機器から枝別れさせて接続する方法）	

1394 本PCカードなどの1394インターフェイス

MO MOドライブ

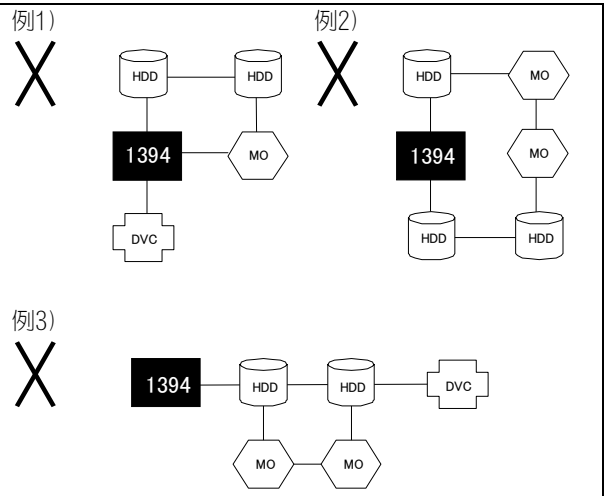
HDD ハードディスク

DVC DVC（デジタルビデオカメラ）

以下の①および②の様な接続で機器を使用することはできません。

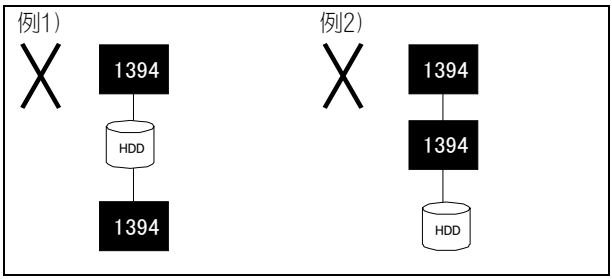
①ループ接続

ループ
（1394インターフェイスおよび機器間をループ状に接続する方法）



②ドライブ機器を複数のパソコンで共有して使用

下記のような接続の場合、基本的には先にハードディスクを認識したパソコンでしかハードディスクを使用することができない、もしくは両方のパソコンでアクセスができなくなる場合があります。



接続可能台数とケーブル使用可能本数

本カードには、最大63台の1394機器を接続できます。
（デイジーチェーン接続のみでは16台まで）

注意

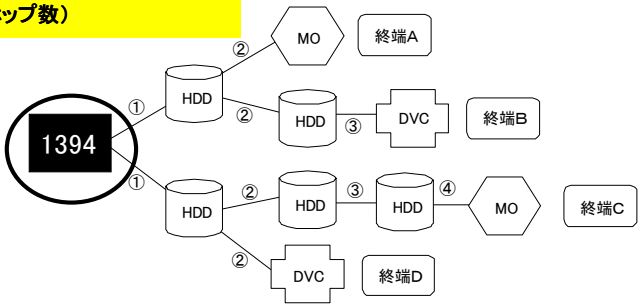
IEEE 1394の仕様としては1394機器を63台接続できますが、Windows側のドライブアサイン（ドライブ番号）の問題等で純粋にハードディスク等のドライブ機器を63台つなげてもすべてを使用することはできません。

また、1394インターフェイスから終端の機器間で使用できるケーブル数は最大16本（最大16ホップ）です。

ホップとは？

ある単位の1394機器から他の1394機器をながめた時、中間に何台の機器がつなげられているかをカウントする場合に、使用する単位です。
実際には、中間の台数だけでなく、最後の１台もカウントに含めます。

本カードから見たケーブル数（ホップ数）

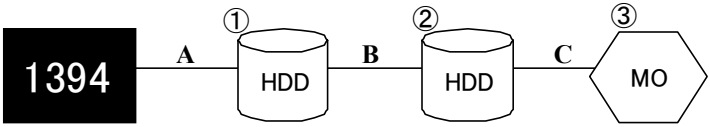


例えば、本カードから
終端AのMOドライブまでのケーブル数（ホップ数）は2
終端BのDVCまでのケーブル数（ホップ数）は3
だと分かります。

複数の機器を接続中に取り外すには

パソコンに複数のIEEE 1394機器を接続している場合、取り外す際に注意が必要です。

下の図のように連続したIEEE 1394機器がある場合は、取り外す機器より後ろのIEEE 1394機器をすべて「停止」（取り外す前の作業）を行ってから、取り外してください。（詳細は、GV-DVC3/CB取扱説明書171ページ【ストレージ機器の正しい取り外し手順】を参照してください。）



例えば、①の機器のみを取り外す場合は、

1. ②と③を「停止」します。
2. ①を「停止」します。
3. **A**を取り外します。
4. **B**をIEEE 1394ポートに接続します。

③を取り外す場合は、

1. ③を「停止」します。
2. **C**を取り外します。

用語解説

Codec（コーデック）

ビデオ画像の圧縮・伸張処理を行うプログラム。

DV方式

HDデジタルVCR評議会により標準化されたビデオ映像をデジタルデータの形式で圧縮しDVメディアに記録する規格。SD仕様と高品位規格のHD仕様があり、本製品ではSD仕様に対応している。
このDV規格は規格書の色から通称"Blue Book"と呼ばれることも多い。

DV-SD仕様の特徴
・映像データ形式はYUV=4:1:1(NTSC)または4:2:0(PAL)で圧縮率1/5
・音声データ形式は16bit/48KHz(2ch)と12bit/32KHz(4ch)の２種類

DV端子

主に民生用のDV機器に使われているデジタル映像の入出力端子で、4pin形状のコネクタが採用されている。

FireWire（ファイヤワイヤ）

Apple社が提唱しているIEEE 1394仕様の呼称。

GOP

GOP（Group of Pictures）とは、一般的に 0.5秒単位にまとめられた画像のグループのことで、MPEGファイルを構成する要素です。

IEEE 1394（アイトリプルイー）

パソコン周辺機器の高速データ転送用の技術としてApple社で開発が始まり、IEEE(米国電気電子技術者協会)により正式規格として制定された規格。
その規格番号から一般的にIEEE 1394と呼ばれる。
SONYがデジタルビデオカメラのインターフェイスとして採用したことで家電業界を中心に普及が進んでいる。

In点／Out点

ビデオ映像の中で範囲を指定する際のキャプチャの開始点(In点)と終了点(Out点)のこと。In点とOut点はタイムコードの数値で指定する。

i.LINK

IEEE 1394-1995仕様およびその拡張仕様の名称としてSONYが提唱している呼称。

NTSC方式

日本や北米で採用されている放送方式で、走査線の数は525本、フレームレートは29.97フレーム/秒。

PAL方式

主として欧州で採用されている放送方式で、走査線の数は625本、フレームレートは25フレーム/秒。

SP（Standard Play）
LP（Long Play）

DVの記録時間モード。60分のミニDVカセットにおいて、SP（標準モード）で約60分、LP（長時間モード）で約90分の記録が可能。

※ LPモードでは、DVメディアの回転速度を遅くする事で、長時間の録画を可能にしているため、若干、映像データの記録精度に問題が発生する場合があります。通常はSPモードでの使用を推奨します。

頭だし

目標とする映像の位置に合わせること。

オーバーレイ

Windowsの画面上に別の映像を重ね合わせて表示する方式。

参照型AVI（エーブイアイ）ファイル

[Video for Windows]による2Gバイトのファイルサイズの制限を回避するために考案されたAVIファイルの形式。
弊社のGigaAVIフォーマットを含め、各社がさまざまなフォーマットを開発している。

シームレスキャプチャ

複数のAVIファイルに渡って映像のキャプチャを行う際に、各AVIファイルの間でフレーム落ちを起こさない方式のこと。

シームレス再生

複数のAVIファイルを連続して再生する際に、切れ間なく連続して再生を行う方式のこと。

タイムコード

ビデオ編集を行う場合、映像の位置決めを容易にするために用いられる時刻（時、分、秒）とフレーム番号からなる位置情報。

ドロップフレーム
ノンドロップフレーム

NTSC方式の場合、ビデオ信号は正確には29.97フレーム/秒 のため、
30フレーム/秒とすると，1時間に108フレーム(3.6秒)の誤差が生じる。
この誤差を補正するため、0，10，20，30，40，50 分を除く毎正分の
開始から２つのフレーム番号(00,01)をカウントせず飛ばすタイムコード
方式をドロップフレーム方式と呼ぶ。
一方、この補正を行わない方式をノンドロップフレーム方式と呼ぶ。

ノンリニア編集

映像素材をハードディスクに持ち、パソコン上で編集を行う方式のこと。
映像編集の自由度が非常に高い編集方式である。

バッチキャプチャ

あらかじめキャプチャ範囲を指定しておき、あとで一括して取り込みを行う
キャプチャ方式のこと。

フィールド

１回の走査で作られる画面のこと。
一般的に奇数フィールドと偶数フィールドの２つのフィールドで１フレームの
画面が構成される。

フレーム

ひとつの完全な画面のこと。
一般的に奇数フィールドと偶数フィールドの２つのフィールドで１フレームの
画面が構成される。

プリロール

VTRなどを使用する際に、再生を開始してからDVメディア走行が安定するまでに必要な時間や動作。

ミニDVカセット

DVメディアには、主として業務用のスタンダード（標準）DVカセットと民生用のDVカメラで使われる小型のミニDVカセットの２種類がある。
一部のDV機器にはスタンダードとミニの両方のDVカセットが使用できる機種もある。

レンダリング

ビデオ編集ソフトで映像データにエフェクトなどを適用する際に行われる演算処理。

GV-DVC3/CB 取扱説明書 別冊
2002.Apr.12　112684-01
発　行　　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

©2002 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。